

総合科学技術会議 生命倫理専門調査会  
「ヒト胚の取扱いに関する基本的考え方」（中間報告書）に  
対する御意見集

意見受付期間：平成15年12月26日～平成16年2月29日

内閣府政策統括官（科学技術政策担当）

平成16年3月

### 整理番号 1

垣添委員・西川委員・高久委員に基本的に賛成。

なお、生殖補助医療については、その出自による偏見や差別が生じないように、十分な啓蒙が行われるのが望ましい。また、これに関連して、ヒトクローン個体の作成について解禁を求める意見が社会に一部あるが、これについては、安全性が確認されていないこと、並びに法体系の整備が充分でないことから、引き続きモラトリアムが必要であると思う。但し、将来許可することを視野に入れた議論が必要になると思われる。

鷲田委員は宗教に言及し、また宗教的ないし哲学的な意見を述べているが、宗教を含めた価値観は多種多様であり、特定の単数ないし複数の宗教による倫理観を制度に持ち込むべきではない。また、無宗派ないし無宗教の人がいることも忘れてはならない。よって、ヒト胚の取り扱いについて、個々人の価値観に基づいて（着床前診断などを行うか否か）選択できる余地を残すといった対応をするというのはどうか。

### 整理番号 2

ヒト胚の研究について、真の問題となるのはその研究結果が”商業ベース”に乗る所から始まると思います。それぞれの研究者は、自らの研究へのアプローチ・過程・結果について限りない未知の可能性を求め純粋な思いで、何に？どの分野に？どのように役立ち誰が助けられるか？等の信念を持って取り組まれるでしょう。その時点で”どんな金儲けに繋がるか？”という事は研究者の頭にはないと願います。しかしながらその後続くのは必ずや”ビジネス”としての商業的な新たなアプローチです。純粋に多くの人達が救われる事のみを目標としてのみの研究を望みます。政府100%の管理の下、この問題を、ヒト胚研究に取り掛かる前に解決してから取り掛かるべきでしょう。ただしそれは金まみれ・献金などのないクリーンな政府と、同じくクリーンな政治家・官僚でなければ出来ないとはいいますが。

### 整理番号 3

（1回目）

- 1 病気で入院しなくても良くなる全部取り替えられるから
- 2 長生きをする
- 3 医療費が安い保険料掛らない
- 4 皆幸せになって国家が潤う
- 5 クロン人間に yes !

（2回目）

代理母出産の早急な法整備を希望します！

日本ラエリアン・ムーブメントは、高田延彦・向井亜紀さん夫妻の代理母による二世誕生を心から祝福します。

誕生した子供は夫妻の遺伝子を引き継いでいるにもかかわらず、夫妻の子供ではなく、日本国籍を有しないとする現行法は、言うまでもなく代理母出産を一切認めようとしなかった、閉鎖的な政府方針からくるものです。

このような実態に合わない古い閉鎖的法律は、価値観が益々多様化し、さらにグローバル化する時代の流れに全く逆行するものであり、もはや憲法第13条に保証されている個人の尊重、幸福追求権に違反する差別的な法律です。

子供を持つ選択肢の一つとして、代理母出産を認める国が今後も増加する傾向にある以上、渡航してまでも代理母出産を希望するカップルは、今後も増加すると予想されます。

この問題を、現行の法解釈の問題で済ませてはいけません。子供を希望する両親とその家族の幸せの観点に立ち、国内での代理母出産の許可を含めて、早急な法整備を強く希望します。

(3回目)

クローニングの技術は、将来の役に立つものと考えます。私の息子や孫の世代には、病気の無い健康な人生を送ってほしいと思います。今、法律でクローニングの研究をストップさせることは、これからの日本の医療技術の発展の道を閉ざすものなり、本当の意味での福祉の向上に成らないと考えております。

整理番号 4

私は2年前、交通事故に遭い脊髄損傷になりました。この2年間、毎日、辛くこれら先の事を考えていると死にそうな位辛いです。どうか助けて下さい、私だけでは無く色々な難病を抱えている人の為に死にたくても、死ねないこの身体を治して下さい。短い文章ですが、やっとの思いで書き込みしているのでどうかお許しして下さい。

整理番号 5

反対

・私はこの技術は人類は手を出すべきではないと思う。もしこの技術での治療が可能になっても、利用したいとは思わない。又、人間はいかなる物でも軍事に使用してきたという事実は歴史が示す通りである。いくら軍事目的で使用しないと言っても、遠い未来では使用されるのは目に見えている。

整理番号 6

\*現状では私企業が社員の社外活動を奨励していないことが一般的であること、私の現実の問題としても、取引先で業務遂行することが殆どですので勤務時間中に業務外の話題についてはタブーであることが匿名希望の理由です。

本題に入りましょう。市民の一人として今回公開された「人胚の取扱いに関する基本的考え方」の記述については、まず分かりやすい表現で適切な時期に大変意義深い報告書と感じました。今回の報告の中には客観的表現に留意された点も高く評価されるものと思います。次回以降は更に踏み込んだ部分、「この研究を続けられることの成果予想、目的」や「法で禁じられた取り扱いの結果考えられること」の更に具体的な記述を期待します。

人クローンと巷言われるこの研究がヒトにどれだけの具体的貢献をするものなのか、研究を続ける以上必ず最終的な到達目標はあってしかるべきでしょうし、他例では人工交配された一部ペット犬に骨格に致命的に弱点を持っている種があるというのはペット愛好家には周知の事実です。またヒト胚が第三者の胎内で成長するプロセスで親たるもの以外の人間から遺伝子学的な継承があるのかないのかも私のみならず大変注目されている部分でしょう。

人クローンを無差別に作ったり、他の生物と交配するとどんな危険があるのか。考えられるのか。立場上、予測的表現も困難な部分であり公表しかねる部分もそれぞれ多々あるかとは思いますが、更なる期待をして止みません。

#### 整理番号 7

動物に対しては配慮がないのに、人間であるというだけで、丁寧に扱うのはどうかと思います。人間も動物の一部です。命の尊さでは、動物も人間も同じなのではないでしょうか？人間だけ、尊厳がどのと言うのはおかしいと思います。ヒト胚・ヒト受精胚の扱いについて、動物胚・動物受精胚と同様に無駄にせず、今後の発展のために使ったらよいと思います。人間がこれからも生きていく為に、病気で死なない為に、死にたくなくても死ななくてはいけなかった人達の為に、出来ることをする。それが一番なのではないでしょうか。人間は傲慢な生き物です。実際自分が現在不治の病とされている病気にかかり、クローン技術を駆使すれば助かると言われた時、クローン技術はダメだといっていた人でもすぐにクローン技術の発展を望むと思います。でも、もし動物胚・動物受精胚もヒト胚・ヒト受精胚と同じ扱いをするならば、これから生きられるかもしれない”もの”として大切に研究して頂きたいと思います。

#### 整理番号 8

(1回目)

今現在テレビで良く放送されているのが心臓の悪い子供さんが何千万円もかけて、アメリカに移植手術をやりに行くというニュースです。しかもドナーとなる人の死！を待つものです。しかも免疫拒否反応による危険も伴います。こう言った高いお金と、高いリスクの伴う移植手術よりも、安く、安全に人が死ぬのを待つ！と言ったいやな思いもしなくて済む方法が、自分の細胞から自分の臓器を作る技術です。この技術が確立すればどれだけの人が助かるかその恩恵は計り知れません。ぜひともこの技術の確立を急いでもらいたいと思います。

(2回目)

現在いろんな病気や先天性の疾患で苦しんでいる多くの人があります。現在の科学医療では救えない物、生体の臓器移植しかない物、などいろいろありますが、いずれにしてもその当事者の人たちの苦しみは健常者には計り知れない物があります。クローンやヒト杯に反対している人たちに言いたいですもし自分がそのような病気になったとき助かる道は一つだけある『ヒト杯』で自分の臓器を作る事だと言われた時、今までと同じように反対することが出来ますか？この技術は人の命を救う技術です！爆弾やミサイルのように人殺しの技術ではないのです。このような人殺しの技術開発には鈍感な人は沢山いて、このように人の命を救う技術に何故こうも敏感に反応して反対するのでしょうか？この地球は多少狂っているとしか思われません。もっと『ヒト杯』が人類にもたらすとてつもない恩恵をテレビやマスコミも報道して欲しいですね。この技術が確立されればあらゆる病気は克服され、人類にとって最後で最大の病『死』さえも克服できる素晴らしい技術でもあるのですから。

#### 整理番号 9

##### ヒト胚の技術開発賛成の意見

科学技術はいつでも中立の立場にあり、それを使う人次第で凶器にも人の命を救う道具になります。戦車⇔救急車、テロに使われるサリン⇔延命効果のある化学薬品、その他どんな科学技術も善と悪のために使われてきました。そして人間の生活は明らかに科学のお陰でプラスの方向に豊かになってきました。例えば昔は30歳までしか生きられず生活の大半を食べ物探しだけに費やしていたが、現在先進国では2.5倍の80歳まで寿命は延び生活の半分以上を余暇などの自己開花の為に使っています。一方、ボタン一つで人類を滅ぼすところまで科学技術を悪の為に利用することも可能になりました。だからといって、人類はその危機

を回避する為に科学を放棄して、例えば寿命が半分になり現在よりも快適でない生活に戻ることは無理でしょう。過去に開発禁止が実施され、完全に灯火が途絶えた科学技術など一つもないことを見れば、新しい科学技術を探求したいという人間の好奇心を邪魔することは絶対に出来ないと思います。そうならば、これからも止まらず進歩し続ける、ヒト胚を含む科学技術を善の方向に利用し続ける法律や悪の方向に利用することを禁止する法律を整備することに集中するべきです。ヒト胚の技術開発やその利用自体を禁止するのは、交通事故で毎日人が死んでいるから、日本中ですべての車の運行やすべての車の技術開発を禁止するのと同じくらい馬鹿げていると思います

#### 整理番号 10

現在の日本では18歳未満の方からの心臓提供が認められていないため、小さな子供は危険を冒しながらも膨大な費用をかけ海外に渡っています。

#### 整理番号 11

ヒト胚の研究により 再生医療が進歩すれば、多くの人の命が救われ、人人が健康で幸せな人生を送ることが可能です。抗生物質によりたくさんの人の命を救ったように、今 医療は次の大きなステップを踏む段階にきています。誰もが 健康で幸せに長生きすることを望んでいます。そう望まない人など いないでしょう。科学の進歩は止めることはできないし、止めるべきでもありません。実際、科学のおかげで 昔に比べ私達の生活はどんどんよくなっているのです。科学は人類を滅ぼすこともできるし、人類に恩恵を与えることもできるのですから、科学の進歩を恐れず、科学を良く使う知性が必要です。日本がこの点で 世界をリードする立場になることを望みますし、そうなれると信じています。

#### 整理番号 12

ヒト胚の技術開発に「賛成」します。

問題は、科学技術それ自体ではなく、科学技術を人間がどう用いるかです。ヒト胚の技術開発によって、医療面での進歩がめざましくなり、多くの命を救うことが可能になります。また、今、日本がヒト胚の技術開発を進めることができれば、この分野で消極的な欧米諸国に抜き出ることが可能になり、多くの国益をもたらします。現在は科学技術の大きな転換期に差し掛かっており、このパラダイムを乗り越えることが要求されているのだと思います。

#### 整理番号 13

(1回目)

ヒト胚幹細胞の研究が進めば、病気やけがで損傷した生体組織を取り替えて修復したり、その機能を回復させることが可能になります。臓器提供者不足も解消するし、拒絶反応もなしですのでいいと思います。何にもまして人の命をたくさん救うことができます。

(2回目)

ヒト杯及びクローン技術は、人類に今までに無い福祉と幸福を与えてくれる科学です。私は、この技術を支持しています。そして、クローン規制法を見直すように国に訴えます。人類の歴史は、全て科学の発展のおかげです。もし、昔、科学の恩恵を拒んでいたら、私たちはいまだに電気、水道のない原始生活をしてい

るはずで、車が發明された時も、殆ど人は反対しました。馬の方が良いと。試験管ベビーが生まれた時も、人は危険だと反対しました。しかし、現在、何万人とこの恩恵に預かっています。科学の発展は、どんなものも否定すべきではないです。クローン技術は、病気を抱えた人々など人類を救う技術です。きっと今から10年後は、当たり前前の技術となっているでしょう。

#### 整理番号14

ヒト胚幹細胞の研究が進めば、病気やけがで損傷した生体組織を取り替えて修復したり、その機能を回復させることが可能になります。

#### 整理番号15

科学技術は常に中立です。問題はそれをどう使うかです。車は私たちに沢山の恩恵を与えてくれていますが、一方で毎日交通事故が起きています。だからといって車を使用禁止にすることは馬鹿げています。また包丁もおいしい料理を作るのに大変役立ちますが、それを凶器として使うこともできます。ですが包丁を使用禁止にしようという人はいません。同様に、ヒト胚の研究は再生医療という点で私たちに非常に多くの恩恵を与えてくれます。ですから、研究自体を禁止するのは賢明な判断とは思えません。

#### 整理番号16

##### ヒト胚の技術開発賛成

私はこの科学技術に賛成します。なぜなら科学は今まで間違っただけのものは何一つありません。間違っただけはその使い方です。使う人です。この技術は間違いなく人類に生産的な恩恵を与えてくれることは科学者全員がわかっていることです。それを止めることは人類への言わば犯罪です。私が将来何かの理由で体に障害または何かを持ったときにこの技術を使わないといけなくなるかもしれません。その技術を止めないでください。私はその恩恵を受けたいです。あなた方はどうですか？ 答えは決まっているはずで、

#### 整理番号17

##### (1回目)

科学はその進歩を止めるべきではないです。

車両と言う素晴らしい交通手段が移動や食料運搬など、私たちの生活を便利にしてくれています。しかし一方、その技術の事故で死亡している人は毎年数万人から数十万人にのぼります。だからといって、それを理由に全国で車両の技術を全面的に見直そうと言う運動は起っていません。私たちは技術を全面否定するのではなく、それをいかに制御していくか、免許制度などで事故の確率をいかに減らしていくかという方向でのアプローチを期待します。

もしそうと言えるのでないなら、あらゆる技術は人を殺す可能性があるもので否定すべきです。車両によって運ばれた野菜も米も、食べることを一切拒否する必要があります。医療技術が研究され、それを受けるに相応しい人を法的に制限して彼らにその恩恵がもたらされるべきです。研究によって1人でも多くの人の命が救われるなら、そのための研究努力を惜しんではいけないと考えます。

年に何人もおぼれ死ぬ急な流れの河に技術を使い橋を設置し、何人もの生命を科学技術によって救うという行為のように。繰り返します。科学の進歩を止めてはいけません。

(2回目)

ヒト胚に関する研究をさまたげるべきではありません。すでに日本は医療などで、アメリカ・ドイツなどと比べ後進国になっており、心臓移植手術1つ行うにも海外へ高い運賃や滞在費を捻出して費用もままならない状態です。ここでヒト胚研究をさまたげるのは、このような現状にさらに拍車をかけるもので、あらゆる病気を直せる夢の技術の可能性を秘めた科学を抑制すべきではないと考えます。もし日本であらゆる病気を完治させる技術が根付けば、日本の医療技術のレベルもあがり、多くの患者達が救われます。倫理的なルールに関しては、法制的な規制をあとから整備すれば良いです。技術は一朝一夕には進歩できません。「いきすぎた科学や医療の影響を、だれが責任を取るのか」という問いに対して、現実的な意味で歴史をふりかえってもそのような責任をとれた人物は1人もいません。そうだとすれば、いかに科学をとどめるかではなく、いかに法的規制という名のたずなを使いまく利用していくかが、今後の医療技術の未来をにぎる鍵となってくるのではないのでしょうか？

整理番号18

(1回目)

ヒトクローン胚の活用については、もちろん生存している人間のクローンに製作については、倫理的に法律にてきちんと規制すべきと考えます。その法律がまず成立していれば、あとはクローン胚活用に関する技術研究は大いに実行すべきです。

その恩恵は莫大なものとなるはずですが、素人の私にもそれは容易に想像できるのですから、科学者の方々にとってはより具体的に提示できると考えます。

白血病でドナーを待っている方々、失明をしていて角膜移植をすれば見える様になる方、手足が不自由な方々、臓器移植が必要な方々、腎臓の病で人工透析を余儀なくされている方々等、簡単に上げただけでもこれだけの方々が切望している技術となります。

また、人間だけでなく、現在絶滅の危機にある動植物の再生、繁殖にも活用できます。

とにかく、人類にとってプラスになる事柄の方が遥かに多いと思いますので、この技術は積極的に進めるべきと私は判断します。

きっと、日本国にとっても今すぐこの技術を推奨すれば今後経済の軸となりえるでしょう。

(2回目)

人クローンに関する倫理的問題については、重要課題といえます。特に現在生存している人のクローンに関しては、法的に禁止すべきです。しかしながら、その他一切のクローン技術に関しては、自由に研究ができるようにすれば良いと考えます。

クローン技術の進歩によりこの日本が、いや全人類が得られると思われる恩恵は無限大であると素人の私でも容易に判断できるからです。

先日もマスコミ紙面上で騒がれていました、向井亜紀さんの代理母報道にもあるように、現在、何らかの理由で子供を持ってない家庭は多分に見受けられます。その方々の子に対する強い情熱ははかり知れないものがあります。しかし現在の科学力では、代理母がどうしても必要になりますが、もっとクローン技術(特にES細胞の研究)が進めば、向井さんのケースでは、子宮を再生することができ、自分の体で子を産めるようになるかもしれません。

また、夏目雅子さんのような骨髄系の病気、盲目、パーキンソン病、生まれながら体が不自由な方、遺伝

的な病気を潜在的に持っている方々など、きりがありませんが、この世の中の全ての病気で苦しんでいる方々がクローン技術研究により、回復され、または病気を未然に防止することが可能となり得ると考えられます。

それだけではありません。遺伝子組み換え食品などに関しても大いに未来を感じます。農業を必要としない強い植物が作れ、イチゴの糖度を何倍にもできたり、砂漠に強い植物を作ることにより砂漠化を防ぎ、食料不足で亡くなる人この地球上からきつとなくなることでしょう。

私は科学力が高いこの日本で生まれたこと、また日本人であることに誇りをもっています。是非日本政府には、クローン技術研究の全面バックアップを強くお願いしたいです。日本政府に先見の眼があることを信じております。10年後、20年後そう遠くない未来に、確実に各国の差がでるでしょう。10年後余り進歩のみられない宇宙技術開発に多額の費用を使うことと、このクローン技術に使うこと、どちらが未来の地球にとって重要な技術かは、多少知性の高い方であれば、判断できると思います。

#### 整理番号19

ヒト胚に関する研究がもっと進めば、いろいろな事が可能になってきます。

それは、まず、人体のクローンを作る事ができ、自分自身の身体の各部分のクローン、(再生医療)を作ることができ、それによって、事故で失った手足や病気で悪くなった身体箇所、眼、耳やあらゆる内臓、脊髄や神経など身体のあらゆる部分を再生して取り戻すことや補うこともできるようになります。それも、他人の体を使わないで、自分の細胞から培養したもので、遺伝子も同じなので、拒絶反応などはないのです、それは、まったく自分自身の体と言えるものです。そして、ヒト胚から始まるクローンの研究がもっと進めば、人体のすべてが、設計図であるDNA、そして、そのDNAの中のどの部分がどのような働きをしているのかをすべて知る事が可能になります、それによって、自由に有機的、植物的な生命体を創造、改造できるというレベルにまで達することを意味しています。

今現在は、メカニク的な無機的、機械的ロボットが、存在していますが、植物ロボットと言えるものも作る事ができるようにもなるでしょう。

科学技術は”諸刃の剣”であり、いつでも、善と悪の両面を備えています、それはもちろん、人間がやる事ですから、もともとその人間そのものに善と悪の両面があるのですから当然です。今までの歴史から見てもわかるように、人類は、今までに発見、発明された科学技術を利用して、良い事も悪いこともしてきました、こうなると、人間の性善説、性悪説の議論になってきてしましますが、それでも、人類、人間は、良いものであると信じるべきだと思います。

しかし、ヒト胚において、クローンに関して、危険が伴うこともまた、現実であります、最悪の事態を考えると人間に危害を及ぼすような人類を滅亡に及ぼすような危険な化け物や普通の人格を持った不幸なモンスターとも呼べる生命体も作る事ができます、それは、絶対にあってはならない過ちであり、止めなければなりません。

だからと言って、ヒト胚に関する研究をすべて禁止してしまうのは、そこから派生するすべての良いものを失うことになり、それ以上に、過ちでもあると思います。

また、今現在の人類、人間より優秀な知的生命体をも作る事もできます、いずれ、この地球に私たち人類が住めなくなった場合や、他に移り住む条件の合う惑星を見つけることができない場合、地球とは違う新しい環境でも生きていける人類、人間を創造し、作り出して、彼らに私たちの文明や知識などを受け継がせる必要もあります、人類が途絶える事のないようにです。

私たち人類は、科学によって新しい世界を創造できると思います、もっと希望と平和と喜びと愛に満ちた



素晴らしい創造的な世界をです。

しかし、絶望、戦争、悲しみ、憎しみに満ちた、あるいは、滅亡といった未来を選択する事もできます。

ヒト胚においていちばん心配なのは、そのヒト胚から育つクローンがいつ人格、意識を持つのかということです、または、単に体のパーツをつくるのでしたら、人格、意識を持たせないように、作られないようにすることが必要です、絶対に人格、意識が傷つけられることがないことが、クローンの技術において大事なことであり、それは、人間の尊厳を守るということです、もし、クローン人間が作られ、五体満足で健康な人間だとしたら、決して、マスコミなどのさらし者にされることもないようにして、彼の幸せを第一に考えるべきです。

結局、今現在の技術では、人間の体外、つまり機械、装置の中で、遺伝子、DNAを合成し、そのヒト胚を作れたとしても、それ以上に発育させていくことはできません、そのヒト胚を人間の体内、つまりその人間、もしくはその他の動物の母体の胎盤に入れて着床しなければ、完全な人間、生命体にまでは育てることはできません、いずれは、母体に入れなくても、外にある装置で人間を作れるようになる技術が必要になってくると思います、それは、母体の保護をする意味もあります、今現在の技術でも、決して、母体となる人間も傷つくことのないようにするべきです。

日本はこれらヒト胚を利用、応用した遺伝子工学、分子生物学と呼べる科学分野で、世界のどの国よりも進歩、発展する可能性を持っています、他の分野に税金を使用するなら、これらの研究にお金を掛けるべきです、そうすれば、世界のトップに立つことができるのです、そこから派生する恩恵は、科学的にも社会的にも経済的にもかなり素晴らしいものになるでしょう、研究して、ぜひその可能性を生かすべきです。

#### 整理番号 20

科学の進歩にブレーキを掛けるのは、愚かな行為。

コペルニクスや試験管ベビーの例の様に、科学の進歩は多数決で決められる物ではなく、多くの人からは突拍子もないと思われる事から始まる。

近年遺伝子組み換え食品がやり玉に挙がっているが、胃の中で消化され腸で吸収された物が人間の遺伝子に影響を与えとは思えない。

もしそれが影響すると言うなら、牛肉を食べれば牛になり魚を食べれば魚になると言うのか？

そもそもすでに日本の食卓には相当数入り込んで居るではないか。

遺伝子組み換え大豆から採った油は、タンパク質が含まれてないからと言う理由で、「遺伝子組み換え大豆使用せず」と表示されている。

この事実を多くの日本国民は知らないが、反対する方々に問いたい。

『害虫を駆除する為に、大量の農薬を使った農作物と遺伝子を組み替えた物と、どちらが安全だと思いますか？』

科学の進歩は誰にも止められない。

人の遺伝子が解明された今、それを人類の幸せの為に応用するのは自然な流れ。

必要なのはそれを地球の脅威にしない為の規制と、厳格な監視だと思います。

#### 整理番号 21

(1回目)

神が 人間を創られたのだとしたら なぜ人間が幸せで長生きをしたり病気の無い永遠の命を求めること

に（即ち神と同等になる）反対はしないでしょう。それは神としての願いではないでしょうか？神は人間が苦しみ 短命にさせ悲しみや不幸を見て喜んでいるのでしょうか？生を受けた人間は皆んな喜びを生活に見出して楽しく生きたいのです。病気・怪我・手足の不自由・飢餓・貧困・死・戦争の無い地球を！！

衣食住の心配の無い世界を皆願って生き・生活を求めています。喜びと楽しさが多くの人が味わえば味わうほど戦争や地球上の争いは無くなります。全ての人々は願っています。それを願わない人・反対する人は 現在の地位や権力を維持したいからです。教育による知識が他の世界を受けつけず頭の回らない人です。他人など関係なく考えてない人です。医学の進歩は世界人類を救うのが究極の目的です。神を信じるか 科学を信じるか？選択の時代に来ています。もういいかげんに真実の眼を見開く時です。地球全体のことに眼を向ける時です。人類の幸せの根源が何であるか真剣に見つめる時です。黄金の扉を開けるのか 論理に拘り現状にとどまるのか人類の叡智にかかっています。私は医学の進歩は人類を救うので賛成派です。科学派です。

（2回目）

人の胚研究になぜこれほどまでに「神の論理」に拘るのでしょうか？

仮定として「神」が 人間を創られたのだとしたら 人間が自身での努力で、幸せで長生きをしたり病気のない永遠の命を求めることに（即ち神と同等になる）反対はしないでしょう。むしろ 喜びをもつて迎えられる行動と思います。それは神としての願いではないでしょうか？神は人間が何時までも苦しみ 短命のまま悲しみや不幸な人間を見て喜んでいるのでしょうか？「神」を見とめる人が「神」を拝み・願い事をしていて片方で「人」の幸福を創る研究に反対は矛盾しています。生を受けた人間は皆んな喜びを生活に見出して楽しく生きたいのです。病気・怪我・手足の不自由・臓器の欠陥・飢餓・貧困・死・戦争の無い地球を！！

衣食住の心配の無い健康な体での生き方・生活を求めています。それに悩まされ日々生活をしている人は数多くおります。切実な願いがそこには存在しています。当事者でなければ判らない苦しみです。かつて元気で「スーパーマン」の映画の主演であった クリストハーは落馬で脊髄損傷をして今 暮らしています。彼はクローンや胚の研究で健康体を求めています。何時かは直ると信じて。喜びと楽しさが多くの人が味わえば味わうほど戦争や地球上の争いは無くなります。全ての人々は願っています。それを願わない人・反対する人は 現在の地位や権力・金力を維持したいからです。教育による知識が他の世界を受けつけず頭の回らない人です。他人など関係なく考えてない人です。医学の進歩は世界人類を救うのが究極の目的です。神を信じるか 科学を信じるか？選択の時代に来ています。もういいかげんに真実の眼を見開く時です。地球全体のことに眼を向ける時です。人類の幸せの根源が何であるか真剣に見つめる時です。黄金の扉を開けるのか 論理に拘り現状にとどまるのか今まさに、人類の叡智にかかっています。私は医学の進歩は人類を救うので賛成派です。科学派です。「神」は科学だと理解します。すべてを救うのが科学だからです。食糧・人口・貧困・健康・水・通信等々の問題は「祈り」でしょうか？科学でしょうか？科学は全てに関与し私達の幸福向上をさせます。「人の命を救う科学を止めるのは犯罪です」・・・ラエル

反対する人は 以後科学の進歩で直る時代になつた場合、それを受ける資格は当然なく 自分から辞退すべきことにはないです。その場合も考えることです。不幸になつている人を助け・不幸にならないようにする事が大切な事です。

-- 以上 --

整理番号 2 2

(1回目)

私は賛成です。これまで、私たちは、科学の進歩によって、発展してきました。医療の分野においても同じです。もし、原始的なままであれば、人の寿命は、短命なままであったことでしょう。成人まで生きられない子供もたくさんいたことでしょう。現に、世界レベルでは、まだまだ医療技術が追いつかないために、日本では助かるような病気で死んでしまう可哀そうな子供たちがたくさん存在しています。

科学の発展を化学兵器等の人を殺すための手段として、使用するのではなく、人を救うための手段として、活用すべきだと考えます。健康的な若い身体で長生きをしたいという想いは、すべての人々の共通の願いではないでしょうか。それを法律的に断ち切ってしまうというのは、許されないひどいことだと思います。もちろん、「生命を大切にする」「個人を大切にする」ための必要なルールは不可欠かとは思いますが、私は、大賛成です。

(2回目)

<ヒト胚に関するシンポジウム>に参加させて頂くことができ、とても光栄です。心に響く素晴らしいお話が聴けてとても嬉しく思います。岸本先生の「人体解剖」のお話、藤本先生の「体外受精」のお話、正しくおっしゃる通りです。いつの時代の人々も、新しい技術に対して、恐れや不安を抱くのは、なぜなのでしょう。たとえ、その向こうに、輝かしい未来が待っているとしても、いつの時代にも、ストップをかける人達があります。しかし、これまで科学は進んできましたし、これからも進み続けます。遅かれ、早かれ、科学は進んでゆきます。遅々とした歩みならOKで、急速な進歩ならNGなのでしょう。岸本先生のおっしゃるように、ストップをかけ続けければ、いつまでも「時期尚早」ということになるでしょう。

もし、抗生物質の使用等、すべての科学技術にストップをかけていけば、私達は今頃どうなっていたでしょうか。私達のほとんどが成人まで生きることができなかつたでしょう。科学と同様に、物の考え方や哲学面においても、私たちは、進歩してきましたし、これからも進歩し続けていくでしょう。西川先生が「江戸時代なら私は切られていたでしょう」とおっしゃいましたが、もし、百数十年前なら、私も切られていたかもしれないと考えるとゾッとします。世界を見渡せば、今でも、思想の自由がなく、国の考え方と違う場合には、極刑に処せられるような恐ろしい原始的な国があります。そして、人の命を奪う戦争があります。これこそが本当に恐ろしいことではないでしょうか。開かれた進歩的な社会では、多種多様な考え方が存在し、「自由に選択ができ」「尊重されること」が重要だと考えます。

反対派の先生方が、その理由として、ヒト胚が「生命の萌芽である」ということと「障害者差別につながる」ということを挙げていらっしゃる様ですが、一方で、中絶が認められているという現実があります。妊娠を望まない場合、避妊は重要ですが、それでも望まない妊娠をしてしまった場合は、中絶という選択が可能です。これも、ストップさせるというのでしょうか。それでは、原始的な時代へと逆戻りしてしまいます。

また、町野先生がおっしゃったように、ヒト胚を「生命の萌芽」と呼ぶのであれば、精子も卵子も同じように、呼ぶことができるでしょう。ヒト胚は母親の子宮に戻されれば、将来、人になる可能性があります、そうでなければ、ただの可能性であり、可能性と現実とは全く別の話です。私は、一人の母親として、将来、人になるかもしれないという可能性よりも、目の前で、現実苦しんでいる子供を助けることを迷わず優先します。黒川先生がおっしゃったように、「自分の子供や孫」の問題として考えることが重要ではないでしょうか。もし、ヒト胚を活用した再生医療が進み、それを使用さえすれば、自分の子供や孫の命が助かるというような場合でも、反対派の先生方は、絶対に使用しないとお約束できるのでしょうか。おそらく、反対派であった多くの人達は、科学の恩恵を受けることを選択されるのではないのでしょうか。

「障害は、個性のひとつとして、尊重されるべき」です。ご自分の持てる限りの能力を発揮され、夢を叶えられ、社会に貢献されているたくさんの素晴らしい障害者の人達が存在しています。そして、叶うことなら、健常者になりたいと願っている多くの障害者が存在していることもまた、事実です。また、できることなら、一生、健常者のままでいたいと願っているすべての健常者がいます。敢えて「すべての健常者」と断言させていただきます。なぜなら、障害を持つことを希望されるのであれば、健常者は、それを選択することができますから。障害を持って生まれることを望んで生まれてこられた人はいるでしょうか。繰り返しますが、「障害は、個性のひとつとして、尊重されるべき」です。ですが、生まれてくる子供に、「この子の個性として、障害を持たせてやろう」と考え、妊娠中に、危険な薬を飲む母親がいるでしょうか。正常な母親なら、そのようなことはしないでしょ。う。障害を持たずにすむのなら、その方がいいに決まっています。先に述べましたように、もし、障害を持つことを希望するのであれば、後から選択することができます。

交通事故で、障害者になられた人達がいます。人と接触しても、人に損傷を与えないという画期的な自動車が開発されたとします。交通事故で障害者になった人達がいるのに、そんな自動車を走らせたなら、差別につながるからといって、その自動車を走らせないことが、果たして本当の知性でしょうか。馬鹿げています。着床前診断についても、健康な子供を持ちたいと第一子目から願うことは、自然な願いではないでしょうか。科学は人間の幸せのためにあり、人類の幸せのために使うべきです。ヒト胚の活用について議論している余地はもうないはずで

(3回目)

<ヒト胚に関するシンポジウム>に参加させて頂くことができ、とても光栄です。心に響く素晴らしいお話が聞けてとても嬉しく思います。岸本先生の「人体解剖」のお話、藤本先生の「体外受精」のお話、正しくおっしゃる通りです。いつも時代の人々も、新しい技術に対して、恐れや不安を抱くのは、なぜなのでしょう。たとえば、その向こうに、輝かしい未来が待っているとしても、いつの時代にも、ストップをかける人達がいます。しかし、これまで科学はすすんできましたし、これからも進み続けます。遅かれ、早かれ、科学は進んでゆきます。遅々とした歩みならOKで、急速な進歩ならNGなのでしょう。岸本先生のおっしゃるように、ストップをかけ続ければ、いつまでも「時期尚早」ということになるでしょう。もし、抗生物質の使用等、すべての科学技術にストップをかけていけば、私達は今頃どうなっていたでしょうか。私達のほとんどが成人まで生きることができなかつたでしょう。科学と同様に、物の考え方や哲学面においても、私たちは、進歩してきましたし、これからも進歩し続けていくでしょう。西川先生が「江戸時代なら私は切られていたでしょう」とおっしゃいましたが、もし、百数十年前なら、私も切られていたかもしれないと考えるとゾッとします。世界を見渡せば、今でも、思想の自由がなく、国の考え方と違う場合には、極刑に処せられるような恐ろしい原始的な国があります。そして、人の命を奪う戦争があります。これこそが本当に恐ろしいことではないでしょうか。開かれた進歩的な社会では、多種多様な考え方が存在し、「自由に選択ができ」「尊重されること」が重要だと考えます。反対派の先生方が、その理由として、ヒト胚が「生命の萌芽である」ということと「障害者差別につながる」ということを挙げてらっしゃる様ですが、一方で、中絶が認められているという現実があります。妊娠を望まない場合、避妊は重要ですが、それでも望まない妊娠をしてしまった場合は、中絶という選択が可能です。これも、ストップさせるというのでしょうか。それでは、原始的な時代へと逆戻りしてしまいます。また、町野先生がおっしゃったように、ヒト胚を「生命の萌芽」と呼ぶのであれば、精子も卵子も同じように、呼ぶことができるでしょう。ヒト胚は母親の子宮に戻されれば、将来、人になる可能性があります。そうでなければ、ただの可能性であり、可能性と現実とは

全く別の話です。私は、一人の母親として、将来、人になるかもしれないという可能性よりも、目の前で、現実苦しんでいる子供を助けることを迷わず優先します。黒川先生がおっしゃったように、「自分の子供や孫」の問題として考えることが重要ではないでしょうか。もし、ヒト胚を活用した再生医療が進み、それを使用さえすれば、自分の子供や孫の命が助かるというような場合でも、反対派の先生方は、絶対に使用しないとお約束できるのでしょうか。おそらく、反対派であった多くの人達は、科学の恩恵を受けることを選択されるのではないのでしょうか。「障害は、個性のひとつとして、尊重されるべき」です。ご自分の持てる限りの能力を発揮され、夢を叶えられ、社会に貢献されているたくさんの素晴らしい障害者の人達が存在しています。そして、叶うことなら、健常者になりたいと願っている多くの障害者が存在していることもまた、事実です。また、できることなら、一生、健常者のままでいたいと願っているすべての健常者がいます。敢えて「すべての健常者」と断言させていただきます。なぜなら、障害を持つことを希望されるのであれば、健常者は、それを選択することができますから。障害を持って生まれることを望んで生まれてこられた人はいるのでしょうか。繰り返しますが、「障害は、個性のひとつとして、尊重されるべき」です。ですが、生まれてくる子供に、「この子の個性として、障害を持たせてやろう」と考え、妊娠中に、危険な薬を飲む母親がいるのでしょうか。正常な母親なら、そのようなことはしないでしょう。障害を持たずにすむのなら、その方がいいに決まっています。先に述べましたように、もし、障害を持つことを希望するのであれば、後から選択することができます。交通事故で、障害者になられた人達がいます。人と接触しても、人に損傷を与えないという画期的な自動車が開発されたとします。交通事故で障害者になった人達がいるのに、そんな自動車を走らせたなら、差別につながるからといって、その自動車を走らせないことが、果たして本当の知性でしょうか。馬鹿げています。着床前診断についても、健康な子供を持ちたいと第一子目から願うことは、自然な願いではないでしょうか。科学は人間の幸せのためにあり、人類の幸せのために使うべきです。ヒト胚の活用について議論している余地はもうないはずで

### 整理番号 23

#### (1回目)

人胚の研究に賛成です。ヒト胚幹細胞の研究が進めば、病気やけがで損傷した生体組織を 取り替えて修復したり、その機能を回復させることが可能になります。それが実用化されたときにその恩恵を受けることができる方々のことを考えると、研究を禁止することは犯罪ともいえるのではないのでしょうか。それらの技術が本来の目的以外のものに悪用されことを心配する意見もあります。しかし科学技術というのは全て本来の目的ではなく悪用されるということと背中合わせで発展してきました。

科学技術に正しい、誤りというのではありません。それを探求するのは人間の本能です。それを正しく使って人類が幸福になるか、悪用して人類自ら不幸、あるいは滅亡するかは人間の知性にかかっているような気がします。現代人は一昔前の人が見たら神業とも思えるような医療技術を日々当たり前のように利用しています。科学の発達を止めることはできないでしょう。自動車がない世界を私達が想像できないように、ヒト胚の技術なしに幸福な世の中を考えることができない時代がやってくることは間違いのないでしょう。それは現代の私達が馬車で生活することが想像できないこととまったく同じことなのです。

#### (2回目)

私はヒト胚に関する研究を続けることに賛成です。科学的な発見が人々の生活を便利にしたり、またたくさんの人に幸せをもたらさなかったことは過去ありませんでした。現代に生きる私達はその科学、医学のも

とで当たり前のように生活しています。またたくさんの人が現在不治の病で苦しんでいるのも事実です。科学は発展途上にありながらも私達はその科学がない生活など考えられません。現代人は科学に頼りすぎているという人もいます。確かに大昔と比べれば信じられないような科学技術を使っているのは事実です。それが良くないことという人もいます。しかし便利なことと、精神性の衰弱は別のものであると考える必要があります。これは別なところで考える問題です。私達はこの科学による便利さに完全に乗っかって未来に向かっていきます。ヒト胚に関する研究は多くの医療技術と同様に人々から苦しみを取り除くでしょう。おそらくそれは究極の技術になります。新しい技術が登場したとき世間から批判されるのはしかたがないことです。すべての新しいものがそうでした。しかし、それはいま皆に認められ、なくてはならないものになってます。もちろん それを使うかどうかはあくまで個人の自由であるべきです。健康な人が病気で苦しんでいる人の身になることは難しいことです。食べ物が十分にある環境にいる人が、飢餓で今にも死にそうになっている人たちがいることなど想像することが難しいように。ヒト胚の研究やその他の画期的な技術もそれに反対する人はたくさんいるようです。しかし、この技術が確立されることによってたくさんの人々の命が救われたり、苦しみを取り除かれることを考えたとき、このようなものを禁止するというのはそれこそ犯罪に相当するのではないかと思えてくるのです。私はこのような技術に反対する人(特にこのようなことに関しての決定権をもつ政治家は)に対しては、これらの技術が実用化されるようになっても決してそれを利用しないという誓約書を書くことを義務付ける決まりを作ってもいいと思っています。そうすればこの技術がどれほど大切か、また自分の狭い常識と偏見でそれを禁止することがどれほど馬鹿げているかを気付かせることになるかもしれません。

#### 整理番号 24

技術の開発を国家が全面的に禁止する事は出来ない。イタリア人がイタリアで人間の胚の生成を行おうとしたら、国家はそれを禁止させた。そこでそのイタリア人は公海上で人間の胚の生成をする事にした。国家の手の及ばない場所で実行したり、抜け道がある現状、人間の胚が侵すべきではない神聖なる場所と言う倫理的、あるいは感情的問題で全面禁止するのではなく、安全に国家国民が管理、監視が出来る法制化が最も重要である。手放す事による危険性よりも、手に入れ管理する事による安全性の向上が重要だ。また実施するには早いと言う指摘については、ならば何時やるかと問いたい。何時か可能である技術ならば、早いに越した事は無い。世論が形成するのを待つのではなく、勇気を持って自由で先進的な技術開発を推し進めるべきだ。自ら切り開くと言う開拓精神は国家が保障すべき重要な要素だ。人間の倫理は普遍的ではない。考え方や価値観は変化して行く物だ。先進的である、また価値観が違い過ぎると言う理由から、自由な技術開発を規制すると言う考え方は人間の創造力と経済力を縮小させるだけだ。法制化は人間の胚の管理、監視を明確にし、その目的は安全な技術開発の推進であるべきだ。決してそれらの法律の目的が技術開発の規制となり、自由と開拓精神を損なう法律であってはならない。我々はこの人間の胚に関する自由と開拓精神を国家で守り推進させるべきだ。それでこそ、多くの分野に自由と開拓精神を巻き起こし、技術立国としての日本を次世代に残せる。

#### 整理番号 25

ヒト胚の研究について私は賛成です。

なぜなら、そのことにより命が救われたり、苦しい生活を余儀なくされている病傷者が救われる可能性が出てくるからです。

それに反対するのは、生命よりも自分の意見(宗教観や人生観)を尊重しているだけのように思います。

江戸時代に蘭学を学び、死体の解剖をすることに反対していることと同じように思います。

包丁にしても、原子力にしても、医療にしても、より多くの人に恩恵をもたらす可能性があるのに、危険なこともあるからといって、研究を反対している例があるでしょうか？当然、利用する人の資質はチェックする必要はあると思います。

#### 整理番号 26

研究を進めることに大賛成します。反対するのは、健康で、体が悪いつらさを理解できない人ばかりでしょう。私の夫は生まれつき心臓が悪く大変苦しんでいます。このような研究すすみ、科学の力で病気に苦しんでいる人たちが解放されることを希望します。世の中健康な人ばかりではないのです。苦しんでいる人たちの意見を大切にしてください。お願いします。

#### 整理番号 27

##### (1回目)

科学は常に人々を幸せに導いてくれます。健康な人々は常に健康を願い、病気の人々や、体の不自由な人々は健全で健康な体になることを常に願っています。今健康である人々もいつ病気にかかったり事故で命を落とすとも誰もわかりません。その時、もしそれがあなた自身だったらどうしますか？。素晴らしい科学の力により恩恵を受けることを願い受け入れることでしょう。最高のものを。科学は人を助け、幸せへと導いてくれます。ヒト胚の科学も当然人々に受け入れられるべきです。さらにもっともっと素晴らしい科学技術を進めていくことにもなります。新しい科学、新しい考え方、新しい技術は人々を最高の幸せへと導いていくと確信しています。進歩し続けましょう。さらなる幸せに向かって。ヒト胚の研究に賛成です。1つの通過点ですから。ヒト胚万歳。科学者万歳。青い地球の人々万歳。

##### (2回目)

ヒト胚には、全ての人々を健康で幸せな生活へと導く明るい希望があふれていると思います。私はおおいに賛成です。

私の家族にも、心臓に少しの欠陥を持って生まれた子供がいますが、人目には気づかずごく普通の生活を送っています。親として最大限に愛を与える事は、健全な身体として生きていけるよう望み、かなえてあげる事です。それを誰よりも望んでいるのは、本人だと思います。子供が身体のことを口に出したことは、一度だけだったかと記憶していますが、内心は常にこのことを気かけコンプレックスを持ち明るく振舞っています。人と同じように健康な身体を取り戻す事が夢であり、希望であり、真実なのです。健康な身体で生を受けること、それ自体が一番の幸せだと思います。親は子供が生まれる時、五体満足であることを誰もが望んでいるのはあたりまえの事です。このあたりまえの五体満足な身体を持って生まれなかった子供たちはこの世の中に何万人も、いやそれ以上に存在しているでしょう。また、生まれた後に何らかの障害を受けた人々もさらに多くいる事でしょう。何十年か生活してきて、気がつけば病気と闘う羽目になった多くの人々もいる事でしょう。今健康であっても、明日生きていくかどうかは誰にも判りません。健康な人々は、無頓着にも簡単にヒト胚には反対だと声を高らかに叫びます。なぜ、明日はわが身になったとしても反対だと言い放つのでしょうか。それなら素晴らしい事です。ほんとうに？・・・すばらしいですね。周りを見れば病院があり、お医者さんがいます。治療を受けないのでしょうか。誰しもが最新の技術で、最も素晴らしいお医者さんに見てもらい、最高の治療を人は望むというのに。私にも親がおります。方や痴呆が進み不安を抱

えています。もう一人も、介護を要しています。助けてあげたいです。できる限りの事をして。現実は、厳しいです。生活に追われることと、よい治療法が見つかりません。こんな時、ヒト胚の技術があれば多くの人が助かるのと思います。さらにクローンができれば、もっと明るい未来が持ち構えていると確信します。今を生きているヒトの命を救う事は、罪でしょうか。いいえ、とてもとてもよい行いだと思います。ヒト胚やクローンに反対する人々は、なにをもって反対と言えるのでしょうか。真実は、この新しい科学に賛成か、反対かの二つの選択しかないと言う事だと思います。科学の進歩を遅らせることは、ヒトの命をたくさんたくさん奪いとことでしょう。科学の進歩を止める事は、ヒトの命を終わりのものとしてしまうと思います。全ての人々の幸せと、健康と、愛のためには、科学の進歩に終わりはありません。今私たちの世代がやるべきことは、おおいなる科学の進歩と発展だと確信します。科学万歳。ヒト胚バンザイ。クローンばんざい。

#### 整理番号 28

そもそも、倫理とは何でしょうか。誰がどのように定義するのでしょうか。宗教・民族・国家によって、そして時代と共にどんどん変化してきました。キリスト教ではスプーンを使う事さえ非倫理的だと言い、また車を発明したときでさえほとんどの人達は非倫理的だと非難したのです。交通事故で命を失う人は日本では年間に1万人にもものぼりますが、どうして車が非倫理的だと言わないのでしょうか。この研究が非倫理的だと言うのなら、世界中から車をなくすように取り組むべきです。倫理とは一体誰が定義するものが最も正しいのでしょうか。科学者でしょうか。国民でしょうか。政治家でしょうか。この定義が人類の歴史の中で常に変化し続けてきたということは、倫理の扱いが人類の深い慣習の上に成り立っていることを証明しています。そして倫理の名に基づいた判断が常に間違っていることも証明しています。人類の生活レベルの向上は、常に非倫理的と思われる発明やアクションから始まっているところにこそ、倫理委員会は最も重点を置いて議論すべきではないかと思います。また他の国々の政策も果たして参考になるのかはなはだ疑問です。それらの国々が正し『いという証拠などどこにもないのでから。

科学の時代にあたって、科学的な視点はどうしても必要でしょう。

正しいかどうかの判断は、現状分析の客観性と科学的な先見性そしてグローバルな視点があるかどうかです。人々の過去の情報からくる感覚や常識や慣習に基づく判断をすれば必ずミスをしはずれ訂正せざるを得なくなるでしょう。科学技術の進歩に伴う制限は、これまで例外なく訂正されてきています。もしこの委員会の判断が他国の状況や顔色から決定するのなら、それは今病で苦しむ人々の命を救うことに重点を置いた判断ではなく、他国と歩調を合わせることを優先したものであるということになります。正しいかどうかの判断は命を救うことが大前提であって頂きたいです。

この研究が人の命を救う技術になり得ることは、既に明白です。その技術を使えば、不治の病で苦しむ多くの命を救うことができることがわかっていながら、またその可能性が限りなく高いということを理解しながらどうしてそれを積極的に推進しないのか理解ができません。

もしわかっていながら、それをしなければ犯罪ということもできるのです。司法は常にそのような判断を下しますから。

この委員会がこの技術の推進に制限を加えるというのなら、それは、この技術を待ち望む人々の意見を十分にくみ取ってからにすべきです。もし制限するのなら、人類の歴史の中で犯罪的な判断になるでしょう。この技術によって多くの命が救われるのですから。わずかでも制限があってはならないです。その制限を取り除くことによって一人でも命が救われるのならば。

人類の発見の中でも最も重要かつ重大な発見また発明になろうかという判断です。その利益の大きさから、



躊躇しないで下さい。

一方でいとも簡単に人の命を奪い去る武器を国民の税金を使って、作り続けながら、実際に使用し大量に人命を奪っている事実があります。また日本はそのような国に対して大金を拠出し支援しているのです。解放という名の大義によって大量殺人を支援しながら、人の命を救う技術に制限をかけるなら、それはSM的な判断になります。

この技術が莫大な恩恵を人類にもたらし、同時に副産物として莫大な利益をもたらし、国の累積赤字を解消することもできるようになるでしょう。日本は科学技術で発展を遂げた世界でも類を見ない国ですが、これからも最先端をいく選択をとるのなら、どうして躊躇する必要があるのでしょうか。

どうか決して制限をかけないで下さい。いつもグローバルな視点と素晴らしい未来に起こる事を意識しながら判断して下さい。根拠のない倫理や過去に基づいたから来るもので判断すればず、ミスを犯します。もしこの技術に制限をかけるなら、永遠に進歩はなく生命医療の偉大な進歩はここで止まる事を意味します。過去の遺物からではなく、現在苦しむ人々を一刻も早く救うのかどうか、未来に続く社会では本気で病氣から人類を解放するのかどうかで判断して下さい。

日本が人の命を救うことに重きを置かず、他の国々の顔色を伺って制限を加え、これ以上の進歩を望まないのなら私はこの国を離れます。

この技術を推進し、素晴らしい医療の発展を遂げ快適な生活を送ることができる国に移住したいと思います。

私は心臓を患い命を落としかけました。この技術を拒む国には未来を感じないのです。病氣の苦しみから逃れ、一日でも長生きをしたいと思っています。

#### 整理番号 29

テレビで、芸術家が新しい生命のあり方を問う

芸術展を開いていました。そこには、クローン技術によって年とった若者の姿と豚と人の中間のようでありながら愛のあふれる動物の姿がありました。現段階でのクローン技術は、仮に成功の確率が低いとしても、老化防止や若返りの技術に将来発展するこの技術を研究しない訳にはいきません。私は、不完全な技術が将来に渡り完全になり、年老いた人のクローンがやがては若返る時代がくると確信します。問題はテロメアの調節にかかっていますが、クローンのみならず、通常の医療行為としてもクローンの研究はよい点があると確信します。それは通常、研究段階で利用されている細胞のクローン化と同じ以上の価値があると思っています。

私の主張は、こうです。直ちにすべてのクローン技術の研究を認めて医療のみならず若返りの技術の研究をも許容し、そしてなにより芸術家もいわれるような新しい生命の創造へ繋がる研究を推進することで、動物の長い生殖の結果生まれる固有の形態を何十年も費やすことなく創造できるようにすることで、新しい種類の犬や、猫などの産業に革命をもたらし、さらには、この新しい芸術家が描くような時代はSFで描かれている他の惑星に住んでいるかも知れないような生命の創造をも可能にし、どのような形の生命であれ愛であふれる生物を作ることが将来的にできるのだということが私たちの共有理念となるべきであり、またそうなることを望んでいます。

#### 整理番号 30

賛成です。

私は先天的に心臓疾患があり、今の医学では治療の方法がありません。ヒト胚の研究こそそのみが唯一の希

望です。反対している人たちは私達のような疾患等を持っていない人とは考えられません。世界中には私のように苦しんでいる人々が沢山いるということを理解してほしいです。ヒト胚研究に反対している人たちはもっと愛ということについて学んでください。

もう一度、ヒト胚の研究を必要としている者の一人として、より多くの方々の賛成を心からお願い致します。

#### 整理番号 3 1

現在の人類は科学技術のおかげでここまで繁栄してきました。そして新しい技術が発見されるたびにそれを怖がる常識的な人々は反対してきました。しかしそれを反対してきた人々もそれが常識に変わるとあたり前のようにそれらを利用するようになります。その繰り返しだと思うのです。今回のヒト胚の取扱いに関する問題もそのように思います。ヒト胚に限らず多くの技術、研究が進めば、苦しんでいる人々を救うことができます。こうして論議してる間にもその技術を使えず何人もの人たちが死んでいっています、そしてその家族の方々。。そのことを考えるとその技術を使えるのに使わないという事はそれは犯罪のような気がしてなりません。以上のような事で私はヒト胚の技術開発には賛成です。

#### 整理番号 3 2

過去から現在まで見渡してみても、私たちがあらゆる苦勞から開放されてきたのは全て科学の恩恵によるものであることは明確です。またそれらが悪用されたりする負の面も確かにありますが、それらは知性により本当に正しい方向へと向かわせることも出来る筈です。というか、それらは必須でしょう！ ヒト胚を使った研究を続けるか否かですが、それらによる恩恵は人類にとって計り知れないものがあるはずですよ！ 私たちは幸せになるために、楽しむために生きており、誰も苦しみたいなどは思わない筈です。苦しみから解放する科学技術を止めるべきではないと強く思っています。ご自身または身内の方がそのような立場になったと、考えられてみれば答えは見える筈です。私は大賛成ですよ！

#### 整理番号 3 3

人胚技術開発は賛成です。

私達は科学技術の進歩で現在のような快適な生活を送ることができています。利用の仕方を間違えなければ、未来は創造以上に素晴らしいものになりますね。この技術開発に弾みがつけば、遺伝子的にハンディーのある人達が救われるのは誰でも予想できることです。反対意見をよく耳するとき、私は試験管ベビーで倫理上の問題と騒がれた時のことを思い出します。でもそうして生まれてきた子供たちの笑顔を見るとき、それは決して間違いではなかったということが判ります。この人胚技術開発についても同じことと思っています。

#### 整理番号 3 4

(1回目)

大賛成です。交通事故、病気などによる、身体の部分的な(内蔵器を含む)支障を解決するためには是非この技術以外には考えられません。

この様に署名を集めるという意味はやはり倫理的な問題というところからであると思いますが、しかしこう言う倫理と云っている倫理とはそもそも人間が造った、しては行けないような事という意味ではないですよ

うか。

時代は先えしか進みません、科学や発明の進歩はを怖がるのはもうやめましょう。何故ならいまでもそう言う新しいものを、拒んできたし、ためらって来ても、何一つ、据え置きにした使われていない良い発明や技術はありません。

人類の克服できない事と言えば自然災害以外考えられますか？

(2回目)

人胚、人クローン胚を賛成します。

もし倫理が障害でこの再生医療をさまたげているのなら、これは非常におかしな事です。体外受精、人口中絶、死刑、戦争、などこれらは人が人を造ったり、こわしたり平然と行なわれている居る事であります。可笑しいとは思いませんか？人を助け、生かし、幸せにするこの医療が倫理によって妨げられ、人を平然と殺す行為が当たり前のように行なわれている現状を、倫理というのなら、胎児になる前の事よりも、胎児になってからの人を殺す、そちらの方を問題にすべきです。どうしても認めないというのなら、公的な実験施設を設けて、安全を確認できるものを、許可すると言うような事も考えては？

整理番号35

生命倫理専門調査会 様

ヒト胚を使った研究を続けるか否かを迷ってる？。信じられない”想像を絶する恩恵がありますよ”。車の部品を交換するのと同じように、自分の体の悪い所(臓器、手、足、脳、歯&体の全パーツ)を交換することが出来ます。しかも、拒絶反応がありません。超画期的なことなんです。人は誰でも科学の恩恵に預かっています。(医療の分野もちろんそうです)。医療が自然でない”という理由で医者に行かなかった人はおりますか？。いないですね。全ての科・化学技術の恩恵に預かれないアフリカの一部族は寿命が平均30歳です。これが自然”というものです。特に幹細胞とクローニング研究のおかげで、科学はまもなくすべての病気を治療できるようになるでしょう。この研究に反対する人たちは、この研究が創り出す治療を決して使わないと公約する勇気を持たなければなりません。どんなに社会的地位が高い人でも、事故、病気、怪我の無い人生を送れる保障はありません。全国民同じです。あなたは肝臓が悪く、子供が事故で片足を失ったとしましょう”一ヶ月で元通りになりますよ。いや前より健康になります。人クローニングで同じ人が二人生きる心配がある??。簡単です。この地球上に生きている同じ人のクローニングを禁止すればいいだけです。当初は、事故、病気、だけの再生医療に限定してもいいのです。将来は、犯罪に巻き込まれて死亡した人の再生も出来ます。想像してください。本人はもちろん家族を、無念の悲しみ、苦しみから開放することが出来るのです。間違いじみた、致死犯罪も意味が無くなるでしょう。さらになんと、自爆した殺人犯も再生して裁判にかけられることも出来ますよ。一例を挙げると、現在試験管ベビーで生まれた人は世界で20万人おり、健全な生活を送っています。何の問題もありません。あらゆる方法でも分娩出来ない夫婦に福音を与えて来ました。当時「バカの壁」の連中は法案に反対しました。これは明らかに犯罪でした。無知による犯罪です。「幹細胞とクローニングの研究」を止めることは人類に対する犯罪です。

整理番号36

過去において、人類の意思によってその進歩を止める事の出来た科学技術はありませんでした。どのような科学技術も利用する人間によって、善にも悪にもなります。どれほど小さな子供に危険だからと言って、

家庭の台所から包丁が消えることはありませんでした。小さな子供の手に届かない場所に管理するという配慮が大人によって為されて来ました。どんな科学技術であっても悪用されない配慮をした上で、人類に役立つ為に前向きに取り上げるべきだと考えます。患者の苦痛を軽減して、治癒の喜びを与えるのが医学を含む科学の徳です。ヒト胚研究に関しては、既にその有用の重大さが認識されていますので、研究意欲を抑える理由はなく、研究による進歩を妨げれば、消滅させることが可能であったかも知れない患者の苦痛に対する責任が生じると考えます。ヒト胚研究やクローニングに対して海外には積極的な国があります。アフリカの或る国でさえ日本より遥かに前向きですから、このままであれば日本の生命科学は近い将来アフリカに追い越されてしまうかも知れません。

整理番号 37

(1回目)

ヒト胚を用いた全ての実験及び治療に賛成です。

何故ならば、遺伝子操作技術は人類が今まで解決できなかった最も大きな苦悩である、病気や老衰、及び死までもを克服することが出来ます。人の死を待つまでもなく自分自身のDNAの臓器を移植でき、遺伝子が原因の病気も完全になくなるし、クローンベビーによって、不慮の事故で亡くなった人の再生も可能になります。人類が待ち望んだ技術です。この技術に関して、何らかの制限や禁止をすることは馬鹿げています。アメリカによって牛耳られているIT技術は単なる情報伝達手段の改革ですが、遺伝子操作技術は人類の幸せをもたらす革新的な技術です。現在日本の経済は低迷状態です。この遺伝子操作技術を、国を挙げて促進と援助することは、世界に先駆けての遺伝子操作技術の先進国になります。日本経済活性化の救世主となります。どうか夢の技術に制限や禁止をしないで下さい。

(2回目)

私は、ヒト胚およびクローン人間を含む生命科学に関する全ての実験及び医療行為に賛成します。

一連の生命科学がもたらす、人類の貢献は計り知れません。人類の不幸の大きな原因である、病気と老いと死までもを克服するからです。他人の臓器移植や血液輸血する事もなくなるし、ロシアブルーレットみたいに、自分の子供が遺伝的に障害を持って生まれることもなくなる。全ての遺伝的障害による病気も克服できます。それによる、患者自身とその家族に対する絶望感と不安と苦労をなくす貢献度は計り知れません。もしあなたの愛する人や家族が、遺伝子関連技術で病気が治り、命が助かるとしたら、その技術に頼りますか？それとも倫理観からその技術を拒否しますか？もちろん輸血を拒否する人のように、その医療行為を拒否する自由はあります。しかし、その技術を発展させて、利用したいと希望する人を、拒否することは出来ません。

この技術を、否定的にしか捕らえられない宗教観から来た「倫理」と言う概念で判断する事はナンセンスです。進化論を信じる人が、神の領域を侵すと発言することも筋が通りません。

この生命科学の賛否を、宗教に照らして考えるのは無駄です。なぜならその宗教が生まれた時は、人間が自分の臓器を作り出したり、生殖なしに人間を作り出すことが出来るとは想定してはいなかったからです。昔の道徳や倫理観、宗教観を基に、この生命科学を判断することは、ライト兄弟の飛行機（いや紙ヒコウキ）にロケットエンジンを付けるような物です。

古い考えはついて来られないのです。この新技術は、人類の幸せにどのように貢献できるかだけを考えるべきです。

そしてこの技術を発展させるべきです。

12月25日にクリスマスを祝い、31日に除夜の鐘を聞き、正月に神社に初詣に行く、心の広い日本でこそ、この生命科学は、発展させるべきです。自分達の利益しか考えていないアメリカに追従しないで下さい。どうか「トロン」の失敗を2度と繰り返さないで下さい。

#### 整理番号38

科学は、これから益々進歩し続け、今、私たちが生きている時代も、100年先の人たちにとって、原始的な生活に見えると思います。これから生まれる人たちのためにも、科学の進歩を妨げる法案を作ってはいけないと思います。私たちは、科学の進歩の途中を生きている人間に過ぎないのですから。

#### 整理番号39

バイオ技術の進展に伴う生命倫理については、これは最終的に単にそれを利用する個人の選択ということになり、それを政府が初めから規制するのは非常に疑問を感じます。もちろん技術の不正な応用や、明らかに実際のリスクのある研究について管理するのは義務でしょうが。その技術を感覚や価値観上嫌い、拒否する人も多いでしょうが、今それを必要としている人はもっと切実な現状に立たされているはずで、それを止めてしまうのは罪とまでいえるのではないのでしょうか？私も福祉に携わっているものとして、このような切実感は毎日触れています。ですからもしこの技術が進歩し、応用され、新しい臓器や四肢を得ることができたとき、それを使う本人が希望するのであれば、なぜ政府は止められるのでしょうか？リスクがあるからといって、それは命を救うための行動と選択なのです。個人がその技術を使う使わないという判断そのものを政府が取り上げてしまうのであればこれは科学の独裁です。今現在このような判断の岐路で政府が留まっているのは、弱者（病気や障害）の立場、現状をいかに把握していないかということの現れです。全てのバイオ研究を適切な政府の監視のもとに大いに進め、ひろく日本の福祉に役立ててくださることを期待しています。

#### 整理番号40

興味深い報告書を読ませていただきました。私のような標準的な一般市民が理解するにはやや難しい箇所もありましたが、およその内容は理解できたつもりです。この報告書の中で問題とされている点について、私がお願いしたいことは「愛」です。その新技術が人間を幸福にしようとするものであれば、ぜひ大いに研究していただきたいです。現在我々が享受している科学技術のほとんどは、人類へのデメリットが皆無のものはないと思います。でもそれを良い方法で利用することで、現代人の文化的生活は成り立っています。今回の「ヒト胚」の問題も同様で、正しく利用すれば莫大な恩恵が人類に与えられることが予想できる技術ではないでしょうか？正しく使うことを考えましょう。この技術を今も病院で心待ちにしている多くの患者がいることを考えましょう。どうぞ「愛」に基づいた決定をお願いします。未知のことをあれこれと恐れるのではなく、勇気と知恵をもって素晴らしい未来を切り開いて行くことを選択して頂けることを希望します。

#### 整理番号41

ヒト胚に関する基本的な考えとして、希望する人の幸福権を尊重しなくてはならないということがあると思います。これは憲法第13条で保証されている国民の権利です。その人の幸福の為に、ヒト杯を使用するのは、最後の手段として認められなくてはならないです。

また、障害や難病を持った人が、病気の治療としてヒト胚の技術を使うことは、生命尊重の考え方からも、また自分の人生をよりノーマライゼーションに生きる観点からも、推進してしかるべきと考えます。

国民の福祉と医療、幸福を考える時、ヒト杯のメリットを十分に勘案して判断をするべきです。

判断の遅れは、人の命を奪いかねないことになります。

国民全ての人にとって革命的な恩恵となるこの技術を、推進すべきです。

#### 整理番号 4 2

(1回目)

ヒト胚の研究、技術開発実験には私は大賛成です。

なぜならば、ヒト胚幹細胞の研究が進めば、病気やけがで損傷した生体組織を取り替えて修復したり、その機能を回復させることが可能になりますし、臓器提供者不足の解消や、拒絶反応も無いので、病気の方の気持ちを考えてみれば、早く研究を進めるべきだと思います。

科学技術は常に良い事にも悪い事にも使えます。原子力発電or原子爆弾の様に。だから使い方さえ間違わなければいいのではないのでしょうか？ そのために法の整備も同時に進めていく事も必要だと思います。

例えば、自分や、自分の子供、愛する人が病気にかかって、再生医療でしか直せないとしたら、選択の余地は無いと思いませんか。

それでも皆さん反対するのでしょうか？

(2回目)

前回は賛成意見として投稿させていただきました。

今回も賛成意見として投稿させていただきます。

理由としては、単純に自分の愛する人が生まれつきの病気や、何かの病気にかかった時、再生医療ならば治す事が出来るのに再生医療が違法で自分の愛する人の治療が出来ずに命を落としてしまう事は許せない事があります。よく宗教関係者が、倫理上ヒトハイをいじるのは神の意思に反するとかいってますけど、今現在生きてる人で再生医療を必要として苦しんでいるのに、ほったらかして苦しませている方が、生命倫理上おかしいことではないでしょうか。僕はそのような事に矛盾を感じます。それにもし、反対意見の人たちに、将来再生医療の技術が整って、色々な病気が治るようになって、その人たちに、再生医療を拒否してもらって苦しんでもらわなければならないですね。

#### 整理番号 4 3

(1回目)

私は、ヒト胚を病気の治療など、人の役に立つように利用することは、全く問題のない事と考えます。生れながらに遺伝的欠陥があったり、不慮の事故などで手足を失ったら、正常な身体になりたいという気持ちは誰でも抱くと思います。それを実現できる技術は利用すべきです。私たちはそういう技術を利用して進歩してきて、現在のように、寿命が延び健康に快適に暮らせる事が出来るようになってきました。さらに、未来の子供たちのために、この科学技術による恩恵を受けられるようにするべきと考えます。

宗教的(倫理的)な見地から反対意見を述べる方もいますが、宗教はその時代の権威者の意向にそって、捻じ曲げられて解釈されてきています。結局大勢の意見にそって、時代の後追いで解釈が変わっている宗教の意見は参考にならないと考えます。(実際に、バチカンが昔、科学を完全に否定していましたが、現在で

は、一部認めてきています。)

(2回目)

総論になりますが、人が生み出した科学技術の恩恵を多くの人授かれるように、できるだけ努力が必要と思います。科学技術は常に改善して、よりよく向上できるものですので、先端技術の現時点のレベルで、研究の継続か否かを決めてしまうのは問題と思います。

技術の進歩を信じて、未来に対して先見性を持った寛容な判断を望みます。 宗教的・倫理的な側からの意見は、時代とともに変化しているものです。特にカトリックでは、昔は、全面的に科学に対して、「NO」の姿勢を貫いていたかと思いますが、現在では、自分が病気になれば病院で科学技術の恩恵を受けるなど、科学を受け入れるようになっています。現在ある社会的な問題（先天性な病気・人口問題・飢餓や疫病・経済等々）を解決できるのも科学技術でしかありません。人クローン胚の研究も、そこから得られる恩恵が数知れないものと考えられます。

(3回目)

今日のシンポジウムに参加させていただいてありがとうございました。反省意見ばかりでなく、賛成意見も意外と多くあるのに気づかせてもらいました。

私は、やはり、ヒト胚研究を積極的に進めてもらいたいと思います。実際に遺伝子治療でしか治らない障害者の方々の意見は、本当に身につまらせる思いで聞かせてもらいました。

動物も人も、同じ生命を持った存在です。動物実験はいいけど、人での実験はだめというのも変な話です。痛みの伴わない、人類の役に立つことへの利用に関して容認されるものと思います。

健康な体を持った、障害者を身内に持たない人は、簡単に、NOという意見を言えるでしょうが、障害を持った人にとっては、一日も早い治療を望まれます。

現状の社会福祉では、障害のある人へのケアは十分にできないことは明白になっています。究極の社会福祉は、すべての人が健康な肉体を持つことではないでしょうか？

今、クローン技術、ヒト胚の取り扱いに反対している人はこれらがもたらす、恩恵以上の社会福祉をもたらす責任があります。この責任を果たせる人はおそらく誰もいないでしょう。

未来の究極の社会福祉のために、ヒト胚の研究を進めてほしいと思います。

介護保険制度のように、自己責任に基づいて、自由に自分が求める医療レベルを選べる国として、進めるべきと考えます。

整理番号 4 4

ヒト胚幹細胞の研究が進めば、病気やけがで損傷した生体組織を自動車部品を交換するみたいに簡単に取り替えて修復したり、その機能を回復させることが可能になります。これによってたくさんの命が救われると思います。

整理番号 4 5

(1回目)

科学は人の命を救うものです。ヒト胚も言うまでもありません。科学に対しストップを掛ける事は、人類に対しての犯罪です。

(2回目)

人胚に関し、今回の高田延彦、向井亜紀さん御夫婦が気の毒でなりません。今この問題に携わっておられる皆様の中に、或いは御身内の中に二世を望む事が出来ないお体であられた場合、それでも議論されますか？。代理母出産の早急な法整備を希望します。子供が欲しくても授からない夫妻は沢山居られます。代理母出産による二世誕生を切々に望み、渡航されるカップルは今後も増加するでしょう。二世は夫妻の遺伝子を引継いでいます。国内でも代理母出産許可を含め、早急な法整備を強く希望します。

整理番号46

(1回目)

科学の進歩について常に反対の意見が沸き起こりますが、誰もその事を止める事は出来ないし、無駄である事は歴史を紐解けば理解できます。ようは、どのように使うのかを決めるのは人間自身という事になります。もし自分の愛する人を事故や事件などで失った時に生涯心に傷を抱いて生きていくのか、あるいは再生の可能性があるなら、どんなに希望を持つ事が出来るでしょう。愛する人を失った多くの人達に聞くほうが良いと思いますが、もし、自分の子供を不慮の事故などで失ったなら迷わず再生を選択しますし、そこには生命への倫理などの余地はないように思います。いずれにしても世界中の何処かでパイオニア的な国が技術の確立をすと思います。悲しみから喜びへの転換こそが生命への倫理なのではないでしょうか。

(2回目)

もし、自分の愛する子供やパートナー家族などが不本意な死を余儀なくされたらどう思うでしょう。どれ程無念であったでしょう。そして残された人達の生涯にどれ程の影響を及ぼすのでしょうか。もし再生が可能であるなら、どんな事をしてもらうでしょう。家族や子供・伴侶などを亡くされた方々に再生可能であることを告げて問いかけてもらえばと思います。そこには神の意思など無いはずで、神は不本意な死をもたらす程のサディストでは無いはずで、現在の地球上の悲惨な光景が神のご意思であるとするなら神とは非情な方々と言えますし、尊敬出来るとは思えません。人の為に良いと思われる行いを人間が選択する権利を手にしていると思います。もろ刃の刃のように良いと思う事であれば信念を持って突き進むべきです。神と呼ばれる人達は人間の知性の選択を見ているのだと思います。クローンの進歩を願います。

整理番号47

(1回目)

あらゆる科学的な行ないはとても大切です。その発見、発明のお陰で生活環境が改善されとても便利になり、余暇を楽しむことが増えてきました。あらゆる分野での科学の進歩、発見の数と速度は今後益々加速度的になりますが常に新しい科学を受け入れて人類の進歩に役立てたいです。

私の兄は他人の交通事故で下半身付随のまま26年間動けませんでした。でもヒト胚幹細胞の研究が進めば病気やけがで損傷した生体組織を取り替えて修復したり、その機能を回復させることが可能になります。臓器提供者不足も解消するし、拒絶反応もなしです。好きだったスポーツを、また走れるようになれるのです。なんとと言っても母親が付き添い看護の重労働から開放されます。子供は親に苦勞をかけることはとても辛いものです、想像してみてください、これは夢ではありません、現実にかかることです。これを考えたらマイナス面は取るにたりないです(実際はマイナス面はありませんが)。沢山の人がもう1度生まれて来た



ことを表現できます。イラク戦争で手足を無くした少年達もいます。このような治療を行っていけば、逆に暴力や戦争は無くなっていくでしょう。

(2回目)

私は二度目の参加意見です。テレビで高田・向井亜紀夫妻の記者会見を観てやはり、どうしてもヒト胚クローン技術の研究を発展させあらゆる福祉と医療に役立て国民と言うより、これは世界の人々を本当の意味で内面から助け幸福にすることが出来ます。アメリカの思いは利用してビジネスにあります日本もビジネスに遅れないように、日本が先駆けて行えば海外への流失は避けられ巨大な経済効果になり、失業者問題の解決にも役立つでしょう。戦後日本は開かれ受け入れ導入して皆の生活が良くなりました、これからも新しい発見を受け入れ発展させたいです。潜在的にたくさんの利用者がいます。私は工場で働いていますが疲れ易く若い時のようには働きません、病院にお世話になる時が来るでしょうが、薬と手術でなく拒否反応の無い遺伝子治療を受けて死の直前まで自分の身の回りの事は自分で出来る体でいたいです、そして人生を楽しみたいと思っています。皆で高度成長を支えてきました、その経済力で研究をして発見もありました。それを皆の役に立て安心させたいです。

整理番号 48

私はヒトクローン胚による治療が一日も早く実現する事を待ち望んでいる筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の難病指定患者です。病気は進行しており、腕は殆んど上がらなくなりましたが、指はなんとか動きます。脚は支えられて20歩程歩くのががやとです。喉の筋肉も衰え、誤嚥が多くなると共に飲み込みが悪くなり、食事に1時間以上かかります。

アメリカ製で世界各国で使用されており、日本でも厚生労働省唯一の認定薬「リルテック」を飲んでおりますが、これは進行を遅らせるもので治療薬ではないとの事です。

治療薬のない現在、ES細胞による治療しかないと考え、昨年(2003年)3月の古希を迎えた日に次の事を確認しました。

- (1) 5年以内(75才まで)にES細胞による治療が確立すると信ずる
- (2) 第1号の治療患者になる事を希望し、主治医にも伝える
- (3) 手術に耐えられる筋力・体力・気力を維持する為、リハビリに専念する

その後、サルのES細胞を神経細胞に分化する技術を開発(4月)・国内初、ヒトのES細胞に成功(5月)・サルのES細胞から作製した神経細胞を、人間のパーキンソン病と同じ症状を示すサルの脳に移植して症状を改善させる事に成功(10月)・理研の研究倫理委員会は、国産ヒトES細胞から神経や脂肪の細胞を作る研究計画を承認(10月)・国産ヒトES細胞提供へ、京大再生研が分配規則(11月)等が報道され、期待が高まりました。しかし、私の体の方はこの十ヶ月で予想以上に筋肉の退化が進行し、5年の予想が2年短縮の3年〔あと2年と2ヶ月・・・2004年1月現在〕しかもちそうもありません。私の様な先の短い者でも、治療法が確立されその治療によって自力で歩ける様になり家の近くを散歩したい、又自分の手で食事がしたい、と強く望んでいます。ましてや20代30代の若さで、40代50代の働き盛りで発病された方の心中は如何ほどかと察してあまりありません。クローン人間に関する事は、英国の様に法律で規制し、一日も早いES細胞より拒絶反応の少ない(無い)ヒトクローン胚の解禁と治療法の確立を強く望んでおります。

### 1. 「胎児」の扱い

今回はクローン技術規制法の附則やこれまでの生命倫理専門調査回答での議論を踏まえて「ヒト胚に対する考え方」をまとめられているものと認識しているが、町野委員からの意見にもあるように、この議論をする際に「胎児」をどう扱うかについて全く無視して通ることはできないと考えている。実際、科学技術会議生命倫理委員会ヒト胚研究小委員会の場でも、「胎児」をどのように考えればよいかということが問題とされており、その議論の必要性が指摘されている。生命倫理専門調査会だけで結論を出すことは不可能であるとは考えるが、「胎児」の扱いについても視野に入れながら、ヒト胚に関する議論を深めていただきたい。

### 2. 「胚の尊厳」とは

生命倫理の議論の中では、しばしば「死体の尊厳」や「胚の尊厳」という概念が登場する。しかし、死体や胚に「人格」が認められないように、死体や胚には原則として人権はないはずである。「人格」として認められない子供の人権をどう考えるかが倫理学の一つのテーマであるのに、死体や胚に人権はないと考えるのが妥当であろう。すると、なぜ死体や胚を尊重しなければならないのか、ということになる。

現在存在している我々と、死体や胚の違いは意識の有無と考えられるが、一方で、純粋に科学的に比較するだけではほとんど違いはないものである。狭義の「生命活動」という反応（広義では、「生命活動」の礎となる様々な生体反応は死体内の細胞や胚の細胞の中で行われている。）を特別視し、我々はこれをもっていわゆる「モノ」と区別している。しかし、この考え方では、死体や胚は「モノ」に過ぎない、ということになる。

おそらく、我々が死体や胚に「尊厳」を認めるという考えは、死体や胚そのものを尊重しているわけではなく、自分自身を特別視するために、それに連なる「モノ」、すなわち、これから「人」となるものとかつて「人」であったものに一定の付加価値を与えているということではあるか。倫理は、現在存在している我々のためのものであって、死体や胚は元来その対象外である。死体や胚を単なる「モノ」として扱うことについて、現在存在している我々が抵抗を感じるからこういった検討を行うのであって、死体や胚のために検討をするわけではないはずである。

ア prioriに「胚の尊厳」といった言葉を用いることは非常に危険であり、以上のような考え方があることも踏まえながら検討を行っていただきたい。（例えば、「胚は生命そのものだから尊重しなければならない」という意見は、以上のような考え方からすれば一種の「原理主義」に過ぎない。「胚においてはすでに生命が始まっているのであって、人格と同等に尊重すべきである」と主張すべき、ということになる。）

※ヒト胚研究小委員会の場では、「人」でも「モノ」でもない中間的な存在として、いわば「人の生命の萌芽」である、としたのであって、この言葉が一人歩きをすることには危惧を抱かざるを得ない。

### 3. 倫理は不変か

倫理は、絶対的な真理ではなく、時代時代の社会状況、人々の思想を反映して時々刻々と変容するものである。すなわち、状況が変われば倫理の考え方も変わらざるを得ない。こうして報告書を取りまとめることは非常に重要なことではあるが、一方で、テキストの形で考え方を固定化してしまうことには一定のリスクが伴うことを認識すべきと考える。よって、報告書を最終的にまとめられる際には、その報告書がその時点での考え方を示したものであり、状況の変化に伴って適時適切に見直されるべきものである旨を明記すべきである。

#### 整理番号50

ヒト胚を取り扱うについてある程度のガイドラインは必要だと思います。ただ現代のように医学の進んだ時代、昔なら命を落として居たような人たちが何とか一命を取止めたものの障害者になり一生苦しく辛い思いをしながら生きていかななくてはならない。そういう人たちがかなり増えてきています。そういう人たちを助けるために役立つのであればヒト胚を使う事になんら問題は無いと思います。胚というものはこれから、ヒトになる事が出来るかも知れない、それを壊す、その事が倫理論に引っかかると言えるでしょうか。だからと言って、世界中のヒトが胎児中絶とかを禁止する事が出来るのですか、精子とかをティッシュでゴミ箱行きを禁止出来る分けも有りません。だったら いくらクローン技術につながるとか 神の領域を超えるとかが 現代医学の中ではすでに現代人は神の超えてしまっているのだから おかしな倫理論とかでは無く良いものは良い 悪い物は悪いとはっきりし 作られたクローン人間自体が苦しむ様な事はしないと、中途半端に命を助けないとか 利になかった倫理論とチャンとした決まりの中で。是非 ヒト胚の利用の研究を1日でも早く確立し 病気やケガで苦しんでいる人たちを 助けて欲しいです。少子化、高齢化、が言われている現在もしかして将来 クローン技術（クローン人間）が必要な時代が来るかも知れませんよ。

#### 整理番号51

私は2年前交通事故により頸椎損傷になり、c6の完全損傷です。私はこの怪我により、ヒト胚ES細胞のことをしりました。今では毎日のように、この細胞の研究の進み具合を、調べています。この細胞を使って、少しでも体が動くようになれば、家族の手も休まるし、社会復帰出来ます。私のように体の麻痺によって、苦しんでいる人が、この研究によって助かればと思います。私にとってこの研究は、生きる希望です。どうか日本でこの研究が進むことを、祈っております。そしていつか近い未来に歩けることを信じています。

#### 整理番号52

私は2年前の28歳のときにスポーツの事故で脊髄を損傷してしまい、両下肢の完全麻痺と診断されました。結婚式直前の事故で婚約者もいたのですが、彼女の御両親の猛反対で破談となってしまいました。あまりの落差に自殺も考えましたが、医者や周囲の人達から再生医療の話を聞き、死ぬことより希望を持って生きていくことを選びました。今は治療の実現を望みながら、仕事とリハビリの毎日を過ごしています。

人の尊厳とは何でしょう？いくら福祉を充実させて金銭の補助やバリアフリーの建物を増やしても心は満たされません。私は楽しいことがあっても、以前のように本気で笑うことができなくなってしまいました。確かに人の受精卵を壊してまで治療を望んでいいものか考えてしまいます。自分が障害者でなかったら反対派になっていたかもしれません。もし自分や家族や知人が障害者や不治の病に侵されたらどうしますか？やはりどんなことをしてでも生きて欲しい、治って欲しいと思うのは当然じゃないでしょうか？それにはES細胞の利用が一番の近道なのです。ここまでES細胞の可能性が立証されている今では、実現に向けての研究をさらに進めていくのが一番いいのです。誰も医学の進歩を止めてはいけません。

ヒト胚の取扱いについては、行政は研究を推進していくとともに、間違っただけに行かないように法の整備も同時に進めていくべきだと思います。研究を容認している国もあることから、我が国でも早急に結論を出す必要があります。今後の日本を医療後進国にするのではなく、医療先進国として世界をリードして欲しいものです。

うまく言えませんが、どうか私のような障害者や病気の人達の生きる希望の火を消さないでください。よろしくお願いします。

#### 整理番号53

受精卵を培養して臓器を作ったりすることは、重い病気を抱え、ドナーを待っている人にはとてもいいことだと思います。しかし、それは研究者の好奇心に任せたものでしかないと思います。臓器だけ許可するという風になったとしても、技術的にはヒトを作り出すことが可能なのだから、絶対にどこかでは作られると思います。2年位前にヨーロッパかどこかで不妊の夫婦のためにクローンが作られたとか、去年も50代の日本人夫婦が外国で卵子提供を受けて子供を持ったけど日本国籍が認められないとか、不妊治療における受精卵の取り扱いで問題が沢山起きているのに、臓器を作り出すということになるともっと難題が出てくると思います。人は誰でも、健康で病気とは無縁の人生を送りたいと思っています。でも、病気の多くは自分たちの管理不十分からくるものだし、先天性のものだとしても、それがその人の人生であり、運命です。我々人類はどこかでストップをかけないと、取り返しのつかない恐ろしい時代がやってくると思います。今に量子コンピューターが発達して遺伝子レベルの予防治療が一般化してくると思うので、私はそれで十分だと思います。

#### 整理番号54

今回の中間報告ではヒト胚の取扱いに関する問題が多面的に検討されており、想定される考えがほぼ出揃ったのではないだろうか。この問題がはらむ「生命倫理」に関して統一した見解が得られる可能性は低いだろう。生殖医療に関わる現行の法律や制度は、妊娠中絶や体外受精の例を挙げるまでもなく、実益重視、現状追認の傾向が顕著であり、「生命倫理」は前面に出ていない。倫理は個人の価値観に関わるもので法律や規制とは本来的になじまず、今回のような検討から得られる結論にはおのずから限界がある。ヒト胚の扱いに関して法的規制が設けられる場合には技術的な細部には立ち入らず、妊娠中絶などに関わる現行の法律における「生命倫理」の扱われ方との均衡を考えるのが妥当だろう。そもそも「生命倫理」は、先端技術で作られたシャーレの中の胚にも、（年間何十万と合法的に中絶される）胎内の胚にも等しくあてはまる、ということ忘れてはならない。「倫理」とはしばしば折り合いをつけ難い「権利」ひとつ取っても、胚の生きる権利、中絶する権利、生殖工学技術で命を救われる患者の権利など、問題は常に複雑だ。生殖医療や関連する現行法制度の現実を客観的に直視して法制度を考えてほしい。結論を言えば、一定の制限と監視の下に、患者の細胞から作ったクローン胚からES細胞を作り、それを治療に利用するための研究を積極的に進めるべきであると考え。

#### 整理番号55

私はヒトのクローン胚を作る事を賛成なばかりか、クローン人間を作る事も大賛成です。不妊の夫婦にはこれ以上ない朗報です。試験管ベビーの時も騒がれましたが、結局その恩恵を授かっている人たちが居ます。クローンベビーもやがてそうなります。

動物でクローンでも親とは違う姿になっていて、決して完全に親のコピーじゃないはずで。科学の進歩を妨げるものは人間の恐れです。科学に反対する者は後で笑いものになるというのが、人間の歴史です。

日本だけでもクローンベビーを認めて、新しい'産業'にする事によって、国家財政を健全にし、経済も活発化するのではないのでしょうか。

#### 整理番号 5 6

##### ヒト胚取り扱いに関して

もっと積極的にこの技術を推し進めてください。私たちが考えなければいけないのは喜びであり、倫理ではないのです。私たちは幸せになるために生まれてきています。倫理的な事の為に喜びを排除するというのは馬鹿げています。生命を尊重するという事は生命に喜びを与える事でしょう。いろんな病気から人の命を救う事ができ、しかもDNAが完全に一致するために拒絶反応もなく安全に健康な体を取り戻せる技術を何故、生命への尊厳とか神の領域を侵すとかいって

科学の進歩を遅らせるのでしょうか。ヒト胚を応用したい人は一握りではなく多くの人が望んでいる事です。これまで科学の進歩が多くの人に喜びや幸せを提供してくれています。科学はいつも中立です。ただ、それをどう使うかによって善にもなり悪にもなるだけです。ヒト胚取り扱いに関して私たちの知性が問われています。ヒト胚利用を禁止する事によるつけは必ずやってきます。手遅れにならないような先見性ある判断を希望します。

#### 整理番号 5 7

研究を止めれば止めるほど、将来私たちが失う利益は、膨らんでいくと思います。いつでも、発明や、研究に悪いものはなく、利用する人の意識に問題があります。例えば爆弾は、人殺しの道具になりますが、花火で人を楽しませることもできます。包丁も人殺しの道具になりますが、おいしい料理を作る道具です。飛行機もテロの道具になったり事故を起こし、一度に多くの人の命を奪います。しかし、大変便利で、私たちの生活に欠かすことはできません。薬も、最終的には人体実験しています。副作用でなくなるひともいます。でも、薬のおかげでおおくのいのちもすくわれています。新しいものは、これまでのものにとってかわり、既得権者の存在をおびやかすため、移り変わりの時期は、激しい争いとなります。また人の胚を扱うことで自分の宗教の価値観が崩れるようなことに結びつくので禁止しようとしています。

自分のことしか考えない人達と、新しいことを恐れる保守的な人が倫理という言葉を出して、今抵抗しています。人殺しをする武器の輸出を日本も行おうとしています。小泉総理はイラクの多くの人の命を奪うことを承認しました。恐ろしいことです。直接手を下さなければいいのか？なぜ人殺しに結びつくことにはストップをかけないのですか？人の胚が他の人を殺す道具になるとは思えません。

いま、世界の多くが禁止している中で日本がいち早く自由を認めれば、世界のトップになり国民の利益になるのではないのでしょうか。百歩譲って医療面に関してプラスであることは確実です。ウイルスや猛毒、感染して害になるようなものでもないです。自由を認めて、誰がいったいどんな不利益になるのでしょうか？研究を規制するのではなく、利用法をしっかりと考えるべきです。

#### 整理番号 5 8

ヒト胚の取扱いをめぐる問題について考えるときに、再生医療などの技術開発によって受けるメリットと、倫理的な問題として生命の尊重をどのように取り扱うかの判断に明確な基準がない事に対するおそれがあります。

実際にクローン研究をすることによって、目の前に見えることだけでも再生医療という素晴らしい未来が見えてきています。それによる恩恵ははかりしれません。目の見えない人にも光が差し込み、手足を失った人にも手足が戻り、車いす生活を余儀なくされている人が自分の足で立つことができ、そしてその先には人類が最も待ちこがれてきた不老不死までもが、視野に入っていきます。これらの研究を倫理的問題を理由に

禁止するのは人類にとっての犯罪です。倫理的問題を口にするとき、あるいはそれを問題にする人たちは人々を恐れさせて自分たちの存在アピールしようとする保守主義者たちに他なりません。私たちの生活は、現在までなされてきた科学技術の発展による者にほかなりません。科学の発展なくしては現在の私たちは存在すらできないでしょう。ヒト胚の取扱いを倫理的な理由によって制限を加えることはナンセンスです。世界を見回すと、テロや、戦争が渦巻いていますが、武器の開発については何ら倫理的問題を話す人はいません。人を殺す武器については倫理的問題がなく人を救う研究に倫理的問題をもちだすなんて、狂っているとしかいいようがありません。ヒト胚が人間に成る可能性があるとしてもまだ生まれてもいない人の権利より現在生きていて病気で苦しんでいる人たちの権利の方が優先されるのはいうまでもありません。私はヒト胚を利用した研究には一切の制限を加えるべきではないと考えます。

#### 整理番号59

人胚やクローン技術は、良く活用すれば素晴らしい社会貢献になり、人類に恩恵をもたらすと思います。

すべてにおいて言えることですが、技術をどう使うのかが重要なのであって、技術そのものが悪いわけではありません。私たちにいかに得をもたらすかは、私たちの技術の使い次第です。特に福祉の為に活用することは不可欠だと思います。何故なら、人の命を救い 障害の為に規制されていたことから個人を解放し、新しい人生のチャンス苦しんできた人たちに与えることができるからです。その尊い使命を技術は担っています。私たちは、私達もてる可能性をフルに人道的にかけがいのない事に生かすべきであり、それを受け入れるかどうかは私たちの選択にかかっています。

新しいものを生み出したり、次の段階に足を踏み入れるには、必ずその前に産みの苦しみを伴うと私は信じます。私たちが苦しんでいるのは、肯定的な考えの反対に付きまとう不安や恐れであり、宇宙のバランスをとっているマイナスの部分であることは理解します。

問題なのは、私たちが木々や、赤ん坊のように成長したいかどうかです。小さい枠に留まるなら、大きな変化はさけたいと思うでしょう。しかし、無限の可能性を秘める人間として成長しつづけ、一国家として前進したいのなら、成長の過程で伴う変化は乗り越えなければいけません。そして、変化を受け入れるのです。少年が青年に成長していくのを認めるように・・・

技術の発達には誰にも止められません。植木が美しく伸びていき、花がより華麗に咲くのを助けるのが私たちの知性と勇気です。望みをかけて、私たちの優秀な指導者のもとで次のステップに踏み出そうではありませんか。

#### 整理番号60

ヒト胚の取り扱いについて、

大部分の声は否定的で保守的な声が多いように思いますが、私は、そのようには考えません。否定的な意見の大部分は、蒙昧主義的な考え方が多いように感じます。神の領域だ・倫理的に問題だ・等の意見がそれです。このような考えは、歴史上において科学が大きく飛躍する時代においていつも現れる典型的な、否定的意見で、歴史上いつも大多数の意見でした。しかし、過去の歴史を振り返っても、科学的な人類の進歩は決して使い方を間違わなければ、人類にとって不利益になることはなかったはずで、人類にとってこの偉大なる科学技術を、禁止するのかどうするのかの問題よりも、どのようにうまく活用するかの議論を進めるべきだと考えます。科学の進歩は決して止まりません。人類の今後の発展に大きくかわるこの研究をストップさせることは、人類に対する犯罪です。私はそのように考えています。

#### 整理番号 6 1

私は開業以来、どのようなニーズが潜在的に市場にあるのか調査を続けておりますが、こと医学（特に再生医療の分野）に関しましては行き詰まっており、その打開策として「クローンニング」の必要性があることを痛感いたしております。医学の業界に携わる方のうちなんと実に79%が「ヒトクローン」による再生医療の発展を望んでいるのです。（平成14年調べ）しかし、蒙昧な一部の政治家は数々の利権のためにこの「ヒトクローン」に関してブレーキをかけてしまいました。なんとおろかなことでしょうか。こうしている間にも助けることのできる命が「法律」という名のもとに秒速5人ものペースで失われているのです。今度は臨終の床にある方にアンケートをとるとよいでしょう。「ヒトクローンに関する法律を犯してでも生き延びたいのなら、クローンエイドに話をつけますがいかがいたしますか？」・・・何人の人がこの非科学的な法律を遵守して死を受け入れるでしょうか？

#### 整理番号 6 2

医療技術の研究は、あらゆる病気・怪我の治療や根絶（予防を含む）を目指すものであるはずですが。その上で、ヒト杯の研究は必要不可欠なもので、この研究抜きには達成できないものでしょう。もしこの研究をストップさせれば未来の世代から、「狭量な倫理観を持ち出して多くの人々を死に追いやった知識人たち」と笑いものとなるでしょう。

#### 整理番号 6 3

ヒト胚推進に賛成です、人類は今、生命科学の新しい時を迎えています、過去人類は多くの病に、倒れながらも、挑戦し解明し前進して来ましたが未だ多くの課題が残されています、ヒト胚を活用することにより再生医療や病気の克服が出来るものと思います。人類の叡智は、やがて希望と平和の時を迎えるでしょう、今ヒト胚推進がその一歩です、無知と蒙昧から、扉を押し開き、新しい輝ける科学の時代入るのです。是非ヒト胚を推進してください。

#### 整理番号 6 4

私にとって真の倫理とは“より多くの人々に幸せをもたらすための規律”です。

価値観が多様になった現在の日本では「実質的な損害を他人に与えない限り、最大限自分の幸福を追求する権利」を認めることが一番重要な倫理だと私は思います。そしてその精神は日本国憲法の13条で認められていることです。にも関わらず「ヒト胚」に関する議題で登場する“倫理”では「ヒトになる可能性のある存在に対する尊重」のために実際に存在している人間の幸福を追求する権利を大幅に制限しています。「ヒトになる可能性のある存在に対する尊重」を尊重するのなら何故中絶が認められているのでしょうか？「ヒトになる可能性のある存在に対する尊重」というのなら全ての精子・卵子の権利を守るのでしょうか？そんなことは不可能です。人権は現在生きている人に対してのみ適応されるべきです。一部の人間の価値観で“昔からそのようにしてきた”という理由で自分の意に反した習慣を押し付けられることは非常に苦痛を感じます。

#### 整理番号 6 5

人クローン杯の研究は積極的に進めるべきである

かつて試験管ベビー、ルイズが誕生したときのことを思い起こすと、マスコミ、世論も大反対であった。

その為日本は研究の遅れによって、イギリスよりも5年もベビー誕生が遅れてしまった。ところが現在では毎年1万人以上の試験管ベビーが誕生し、子供に恵まれない人々に幸せをもたらしている。

誰がこのような時代を予測できたでしょう。

今ここでクローン杯の研究に規制をすることは20年前の伝を踏むことになり、世界の流れから取り残されることとなります。また本当に子供を希望する夫婦は、あらゆる手段で子供を授かりたいと願う。もしそれを規制すれば必ずや海外に出かけて、子供を持つとするであろう。これは日本にとっても、本人にとっても経済的な或いは科学的損失になる。規制に賛成の人はおそらく倫理を唱える評論家や、傍観者、或いは本当に夫婦の幸せを望んでいない人であろう。もし自分が本当に子供をほしい当事者であったらおそらくなんでもすはずだ。またクローン杯の研究は拒絶反応のない臓器の提供をもたらす医療費の軽減、国民の幸せにも役に立つ。たとえ日本がクローンの研究を規制しようが世界の流れとしていずれクローンベビーは当たり前の時代を迎えるであろう。そのためには積極的に研究を行うべきである。

#### 整理番号66

生体間移植では十分ではない技術をこれは完璧にしてくれるものです。もし今その技術があるならそれでしか助からない人は倫理など語るまもなくそれを希望することでしょう。時代がその倫理をも変えてしまう事も歴史が語っています。賛成です。

#### 整理番号67

私は、人の胚研究及び利用に関して賛成です。

人の胚を利用した幹細胞研究及び利用、そして人のクローンに関しては大いに利用すべきだと考えます。なぜなら、私の兄は3年前に43歳という若さで亡くなりました。糖尿病による多臓器不全が原因でした。毎日インシュリン注射をする兄を見ているのが辛かったですし、一日も早く幹細胞研究、いわゆるES細胞が完成し、すい臓や肝臓といった内臓組織の再生医療が完成していれば兄の命は助かったでしょうし、幸せな人生を送れたに違いありません。健康な人は、病気の人の悩みや大変さを真剣には考えません。「健康や医学の発展は必要です。」と発言していながら、毎日何十人、何百人の人が病気で悩んだり、亡くなっています。再生医学の技術が完成しつつあるのに、健康な人はそれは危険だ。そういう技術は使わせるな。危ない。と言います。毎日何人も亡くなっているというのに。でも、そういう人は自分が病気になって初めてそういうことの重要性に気付き、そういう研究や自分への応用、延命を考えはじめます。でも、それでは遅すぎるのです。先進国では、毎日何十トン、何百トンも食べ物を余らせて捨てています。飽食の時代です。でも、途上国では飢えで毎日何十人、何百人が亡くなっています。医学の世界でも、これと全く同じことが行われています。健康な人や先進国の人々は弱者である病人や死にかけている人々のことを余り真剣には考えません。自分のことのように身近に感じられないのです。そこに最先端の医療技術があるにも関わらず、自分には直接関係ないということで、マスコミや政治家が言っていることに惑わされて、「反対！反対！」と言っています。でも、その大元は、一部のキリスト教的な考え方を持った人々が、「遺伝子を操作したり、生命を操作するのは神の領域だ！神聖な領域だ！」と言っていることに由来していることに気付いている人はほとんどいません。彼らキリスト教的な考えの人々は、避妊を禁じ、中絶を禁じ、最先端医学を禁じている言わば偏った考え方を持った人々です。彼らの主張には何らの科学的根拠はありません。そんな医学を禁じているローマ法王ですら、死にかければ病院に入院し、抗生物質や最先端の医療の恩恵に授かることになるにも関わらず、彼らはかたくなにそういう発言を繰り返しています。そういうキリスト教的な考え方がア



アメリカやヨーロッパといった白人先進国社会を支配し、世界の世論を動かしています。しかしながら、実際問題として、病気で苦しんでいる人々や死にかけている人々は最先端の医学を必要としているのです。これは他人が死にかけているのを見て、自分に関係ないし、そういう技術は必要ないと言っているお金持ちの発言に過ぎません。実際に自分が病気にかかったり、死にかけたら、ありったけの財産を使ってでも最先端の医療を要求することでしょう。これは賢明な考え方とは言えません。そして、人間は戦争を起こします。飢えで死んでいる人がいるというのに、病気で衰弱して行く人がいるのに、更に戦争をしに他国へ出向き、そこで殺し合いをします。ブッシュ米国大統領はイラクに大量破壊兵器が存在すると公言して、イラクという国に戦争を仕掛け、多くの人を殺しました。日本の政府もそんな政権を支持しています。一体これでいいのでしょうか？こちらの問題の方が良くないのではないかと、思いませんか？私達人類にとって危険なことは、人災である戦争やそれによる死、病気怪我の苦しみです。人間の心の中にあることが問題なのだと思います。原子力が悪なのではなく、これを平和利用すれば原子力発電として人々に恩恵をもたらしますが、悪用すれば原子爆弾になり、大量破壊をもたらします。我国は広島、長崎に核攻撃を受けた世界で唯一の被爆国です。これらの大量破壊兵器の開発を禁じ、二度と同じことを繰り返さない知恵が必要です。ブッシュ大統領に従っていけば、間違いなく戦争と破壊、大量破壊兵器の衝突が起きることでしょう。医学、再生医療は平和利用をすれば人々に恩恵をもたらすことでしょう。多くの悩める患者さんに明るい未来をもたらします。再生医療は、病気に苦しむ患者に希望と明るい未来をもたらし、生命を生み出します。クローン技術は、不妊で悩む人々に希望を与えます。

私は若い時期に病気をし、子供が出来ない身体です。クローン技術でなければ子供を持つことは出来ません。ですから、クローン技術は私達不妊で悩む人々には希望であり、一度は諦めた絶望からの復活、そして生命の誕生という素晴らしい最先端の医療技術なのです。先日、著名人の高田延彦さんと向井亜紀さんが代理母出産によりアメリカで双子の赤ちゃんをもうけることが出来ました。心からおめでとうと言いたいです。しかし、日本政府や行政機関の対応は冷たいものでした。役所は出生届の受理をせず、政府の福田官房長官に至っては「変わったことをしないで欲しい」という有様です。子供が出来ない夫婦が、最先端の医学で子供をもうけることが、変わったことなののでしょうか？してはいけないことなののでしょうか？私自身政府の要人がこういう発言をするということに首を傾げざるを得ません。これぞ、健全者による弱者へのイジメ的発言に他なりません。福田官房長官には、この二人の夫婦の苦しみは理解出来ないのだと思います。先日テレビ番組で、この夫婦の3年間に渡る苦悩の日々をドキュメンタリー番組として放送していましたが、私は終始涙が止まりませんでした。ガンで苦しみながらも子供を持ちたいと思う向井亜紀さんの執念ともいうべき姿に感動を覚えました。このように、世間では子供が出来ない夫婦の問題や再生医療を待ちながら、死んで行く家族を只々指を加えて見ているだけしかないのです。一体誰の為の研究であり、誰の為の技術なのでしょう？科学者、医者、技術自慢大会なのですか？それとも、国力を示すひけらかし技術なのでしょう？SARS（サーズ）や鳥インフルエンザに感染した人がいて、多くの人が死にかけているにも関わらず、その技術は非倫理的なので使いません、と言って人類の大半が死んで行くのを指を加えて見ている科学者や医療関係者はいないと思います。私にとっては、生命の誕生や命を救う技術である、今ある再生医療やクローン技術を（非倫理的という理由で）使わないというのと何ら変わらない論理だと思います。一体こういうことを誰が考えて、誰が決めているのか？疑問に感じます。本当に知性的で、賢明な判断が出来て、患者や弱者の為になると考えているのでしょうか？非倫理的という前に、人道的な立場をもっと考えて欲しいと思います。「倫理！倫理！」という前に人の命を救って欲しいと思います。

一方で戦争は憎しみや苦しみ、怪我や死をもたらす、その家族に悲しみや恨みをもたらします。この悪い

感情の連鎖は、中東では何百年、何千年も続いています。この戦争と恨みの連鎖は終わらせなければなりません。人災である戦争は、人間の英知で終わらせなければなりません。世論やマスコミや政府が、戦争には賛成で、最先端の再生医療に反対であるという理由は私には全く理解できません。

人類の未来にとって、もっと賢明な判断と真剣な議論が必要だと思います。  
以上です。

#### 整理番号 68

科学の進歩なくして人類の未来は有りません。過去と現在の生活を比較すれば子供でも理解できる事です。医学、車、電気、テレビ、電話などすべて科学の進歩、恩恵によるものです。子供に恵まれないカップルの間に生まれる子供は幸せです。愛されて成長しますから。大事なのは生まれてくるこどもの幸せです。男女の営みによる生殖のみが正しいのなら児童虐待など起こりえないはずで。科学は人類の不快、不便を無くし我々を幸せに導きます。大切なのは法律でもお金でもなくすべての人々の幸せが第一です。

#### 整理番号 69

1997年イギリスはスコットランドの発生学者イワン・ウイルマット博士の指導の元に行われた、羊ドリーのクローニングの発表は世界中に大きな波紋を投げかけました。さらに、驚くべきは、人間のクローニングにまつわる論議に関しては言うまでもありません。

メディアは新しい科学を他のニュースと同じように、賛否を論議するという視点から扱うものだという点を確認して置きたいと思います。しかし不幸なことに、彼らは科学技術が、その賛否の議論とは全く無縁のものであることを理解していません。しかし実に満ちた私たちの科学の歴史は、私たちに、その賛否の議論が科学技術の進歩においては正しかったことがないことを証明しています。電気、自動車、インターネット、試験管での人工授精などを利用するかどうかの、賛否の議論を重ねていたその間にも科学は発展し、進歩し、応用され、洗練され、技術は改良されていきました。

要するに、科学は人の存在そのものです。科学の進歩に賛成とか反対とかをいうのは、どちらにしても、子供の成長に賛成か反対かと考えるのと同じく、ばかげたことではないでしょうか。それは否定することのできないものです。

もし、自動車が発明された当時、馬車で生計を立てている人が大多数の時代に馬車か自動車かを投票で選んでいたら現在も荷馬車が町中を走り回っていたことでしょう。人々は何時の時代も科学技術の恩恵をうけながら恐れています。

#### 整理番号 70

ヒト胚のあらゆる化学的研究に賛成します。人類の未来に貢献することを強く希望します。科学の進歩を止めないでください。

#### 整理番号 71

この問題は、3つのことを考慮する必要があると思う。一体人間は、何者であるか。誰によって創造されたものなのか。進化論的猿の延長だったり、DNAにより多くの情報が得られているがDNAだけ用いて、一体人が創れるものなのだろうか。そして、生命誕生ということは、どういうことであるか。創造主が人間を創造されたなら、その主が人間を創造したと同様の尊さが得られ、それを通してその主がどのような思い、

願いを込めて子たる人間を創造したかが子を産むことで分かるのではないか。故に、そのことから、創造主がいることが分かる。二番目は、夫婦の愛から得られる愛の尊さである。三番目は、それでは子供が出来ないとは、どうゆうことだろうか。主が人間を創ったときに子供が出来ないように創造されただろうか。そしたら、人類の繁殖はあり得ないし、主が人間を創造した意味はあるのだろうか。人間の責任でこういう体にしてしまったと思う。人間の多くの罪故にだと思ふ。この世の中を見ても多くの犯罪、不幸があり往々にして人は罪を犯し、それが先祖代々受け継がれて今の私たちが存在する。DNAの研究によりDNAに先祖代々からのものとして記憶されているのを見ても明らかである。我々に罪があるなら、罪の原因のようなものがあってもおかしくないと思う。ところで、人間は靈的部分（靈人体）と、肉的部分（肉身）でできている。我々は、靈的な世界と、肉の有限世界で生きていることになる。なぜ、靈人体を主は創られたのか。死後の世界（靈界）があるからである。この肉身をもって生きている間、靈人体にすべてを記録されていくのである。死後の世界（靈界）があることは、臨死体験の事実から徐々に明らかになってきている。罪の原因というものが、この靈人体に作用して、罪を犯したり、病気にさせているのなら、治療や研究といった肉身を中心とした、外的な治療で治すことが出来るのだろうか。靈的な、無形実体世界に原因があることを、有限な有形実体世界で解決、研究することに意味があるのだろうか。理論で説明のいかないことがあることは、事実だと思ふ。確かに、難病を再生医療で治してあげることが、できたら素晴らしいと思う。でも、患者の病気が治り、生かされたがその命を今後どう使って、どのように生きるのか、教えてあげることが出来なければ治してあげた意味がないと思う。これが分かったとき、本当に治して下さったことに感謝でき、いかされた命を大事にしようと思ふのではないかと思ふ。

すべて、肉身を中心とした有形実体世界だけで、話が解決しないこと。もっと、創造主を知って、我々と靈界の関係を知ってから、本当に人の為になる高度な技術を研究してくれたらと、切に願ってやみません。

## 整理番号72

まずは「人の生命の萌芽」であるヒト受精胚について。人が個々の人である事が始まるのいつか？という問題がある。卵子と精子が接合し受精卵となりこれが分裂を繰り返して胎児になりやがて生まれ成長する。この一連の流れの中で、人の段階と人ではない段階があるというおかしな話である。が、とても重要な事で、もしヒト受精胚が人と同列に扱われたらヒト受精胚を破棄するだけで殺人罪ともなりかねない。この報告書ではヒト受精胚をヒトでも物でもなく「人の生命の萌芽」として位置付けており沢山の制限を課した上で研究に用いても良いとしている。ここで受精胚と胎児の境界については次のように述べられている。日本産婦人科学会では原始線条形成（通常、受精後14日以降）前は個体を形成する臓器の分化が始まらず多分化能を有しているため胎児ではないとしている。つまり多分化能を持っていなければ胎児と決めているという事である。私はこの「決めている」という事に違和感を覚える。人が発生する過程で受精胚と胎児の境界を人が決めるという事はあまり適切ではないように思える。かといって他に代替的な考え方を持っているというわけではないのだが。受精胚も胎児も人に変わりは無いと私は思う。行き着く先は人なのだから。定義とは考え方一つで変わってしまうので曖昧である。なのでこのような定義に拠り所を求めるのでは無く現在社会で広く認められている事に拠り所を見出すべきであると思ふ。最も良い具体例が人工妊娠中絶である。母体の安全やQOL等様々な事柄から認められている。社会は移ろうものであるが最も身近で重要な（そして曖昧な・・・）尺度であろう。

次に余剰胚について。現在体外授精の成功率は30%程でありこのため何度も採卵しなくていいように受精胚をいくつも作っている。よって胚が余る事は珍しくない。報告書ではヒト受精胚の利用は研究の有用性を鑑

みて余剰胚にのみその利用を限り、研究目的で受精胚を作る事は否定している。余剰胚を用いてES細胞を作る事が出来る。分化全能性を持つ話題の細胞である。ES細胞を作ると人になる道は絶たれる事となる。ES細胞を作るということも一種の壁になり得るがこれも人工妊娠中絶のような社会的認知によって容認し得ると考える。が、体外授精の成功率が格段にあがり、さらにES細胞の研究が盛んになったとして余剰胚の供給量が追いつかなくなる事は想定していない。ES細胞を用いた研究が大きな有用性を持ち将来的にはクローン胚等の今現在では認められない研究も盛んになる事を示唆しているのだからこの点については想定するべきではないだろうか。

また、ES細胞を用いた研究は専門的審査機関による研究内容の審査が必要とされている。判断基準は人の尊厳を凌駕する、「多くの人々に多大な恩恵を与える」研究であるかどうかである。とても曖昧でわかりにくい。誰がどのようにして研究内容を判断するのかを明らかにしないとまず納得がいかない。このあたりはもっともっと詰めて議論するべきであろう。どんな人がどのような根拠でどのような人々に選ばれ、選ばれた人達はどのような経緯と根拠で研究内容を審査したのかを常に発信するべきである。

この報告書の結びに生命倫理に社会の倫理が追いついていないので法やガイドラインで追いつくまでサポートしようという文章があった。社会も倫理も移ろうものであり時代によって変化する。先々の状況を見越してガイドラインを作成することは当たり前の事ではあるがとても難しい事である。報告書の中に国民的議論を促しとあったが2年間かけてまとめた中間報告書の存在を昨日知った生命科学を学ぶ学生が存在する現状ではとても無理な話ではないか？もっと積極的に社会に向けてこの議論を発信し返信を歓迎することが国民的議論と呼べるものであろう。かなり身近なテーマであるので本当の意味での国民的議論を尽くしてガイドラインを作成し問題が起こらないようになる事を望む。また、脳死移植における和田移植のような研究を停滞させるような事件・事故が起こらないように多少は拘束力のあるガイドラインが必要であるとも考える。

#### 整理番号73

すべてが、遺伝子によってコントロールされているので、これを自由にいじることによって幸せにもなれば、不幸にもなります。人間として、倫理を、重んじていかなければ、なりません。その第一段階として、必要です。人が幸せになるために。

#### 整理番号74

子供を造る方法が、科学の力によって、1つ増えたことは子供を造りたくとも、出来ない夫婦にとって喜ばしいことでは、ないでしょうか。

科学は愛です。個人のどんなに小さな問題も、それは人類の問題です。それを解決する方法それが科学ではないでしょうか。禁止してしまうと言うことは、愛を閉ざすことになり不幸なことです。代理母の問題もなぜ日本では禁止なのでしょう。又代理母によって出来た子供がなぜ親子と認められないのか、親子の判定を遺伝子の鑑定によって行う時代になんと時代に逆行していることか。科学は愛です。誰にも止めることは出来ないでしょう。

#### 整理番号75

クローン規制法には、反対します。何故なら資源の少ない日本は、科学技術を発達させて、技術立国を日本は目指すべきと考えます。アメリカでさえまだクローン規制法を制定してないのに何故日本は制定したのでしょうか。政治家は先見性を持っているはずなのに残念です。日本の唯一の資源である人的資源を科学の展

の為に活用するチャンスをみすみす逃していることになります。これは日本国民にとってもまた世界地球の将来の為に、大きな損失です。クローン技術を発展させれば、人類を飢餓や病気食料不足、医学の進歩に多大な貢献をするのに、なんと残念な法律を制定したことでしょう。即時撤廃を御願いしたいです。何故なら科学は人々を幸福にするものだからです。私達はどれだけ科学の恩恵に浴していることでしょう。百年前に科学の自由に反対する法律を通過させていたら、抗生物質、外科手術、輸血、臓器移植、ワクチン摂取、車、コンピューター、飛行機などは今存在していないでしょう。科学を止めることは人類に対する犯罪です。百年前にこのような発見が禁止されていたら、30億人が生まれてまもなく死んでしまい、人生を楽しむことはできなかつたでしょう。その数の中に皆さんの両親や皆さん自身が含まれているかも知れません。私達の少なくとも90パーセントは、科学のおかげで現在生きているということが出来ます。30億人とは、ヒトラーやナポレオンを含む、人類に対するどの犯罪者たちが殺した数よりも多い数字です。今日皆さんの手の中には、現在生きている人たちや、今後生まれてくる何十億人もの人達の命が握られています。皆さんは何十億もの人たちの命を救った英雄として後世に伝えられるか、それとも科学の進歩を遅らせて、可能な治療や新しい生命あるいは永遠の生命を否定し人類に対する犯罪者として名を残すのか、どちらかを選ぶことが出来ます。

とは言っても、遅らせることになるだけです。何故ならそれは結局いつかどこかで行われてしまうことであり、何も科学を止めることは出来ません。しかし法律は研究を遅らせることができ、その結果国民が苦しむことになります。皆さんはその遅れとそれによる死や苦しみに対して、責任を持つことになります。この死や苦しきは、あなた方皆さんのものになるかも知れません。何故なら議員であっても急な病気に罹るのを免れることは出来ないのですから。皆さんの子供や孫であってもそうです。人のクローンに反対する人たちは、自分たちや自分の子供たちに対しても、それを拒否する自由を持つべきです。中絶、輸血、外科手術を拒否する自由があるように。人のクローニングによって私達は永遠の生命を手に入れることができるでしょう。人のクローニングや永遠の生命を含む科学の進歩の成果を楽しみたい人たちにはその恩恵を受ける権利があります。

## 整理番号76

人クローンは早く実現して欲しい

まず、話をしやすくするために定義をしておきます

### (1) 第一段階クローン

体細胞から赤ちゃんを作るクローン

### (2) 第二段階クローン

体細胞から任意の年齢の体を作るクローン

### (3) 第三段階クローン

第二段階クローンに記憶や経験を移植したクローン

私の友人にサリドマイド胎芽症の人がいて、不便な生活を思うと非常に心苦しいです。彼女を治療できるのは人クローン技術をおいて他にないのです。それが単に腕だけを作って移植になるのかあるいは諸般の問題が出て第三段階のクローンができるまで待たなくてはならなくなるのか私には分かりませんが少なくともクローン技術がないとできないことは分かります。彼女に限らず奇形や遺伝子疾患のニュースを聞いたたびに「早くクローンができれば」といつも思います。第三段階のクローンが実現すれば、スタートレックにでてきた転送装置をちょっといじるような感じで、転送元に怪我した人をおけば、転送先で治療された人がで

できます。みんな18才ぐらいにすることもできます。クローン人間を作ることを禁止することはこれらのことをできなくするばかりか一卵性多生児の出産をも禁止しなくてはなりません。なぜなら禁止するからには、禁止されたことが行われたかどうかを調べることが必要になり、赤ちゃんのクローン人間の二人と一卵性双生児の二人を区別する方法はないので禁止せざるを得ないのです。

日本は神の束縛を受けないので世界の哲学のリーダーになることができます。科学と哲学は連動しているので哲学が発展しないと科学は発展しないのです。「水は川からくむべし」と言う哲学があったら水道と言う科学は発展しませんでした。もう科学の準備はできています。今必要なのは「誰もやっていないことにGOをする勇氣」です。今日本が求められているのは軍隊でなくて哲学そのものなのです。哲学そのものは無料です。無料だからこそ良い哲学を提供する義務があります。「いつまでも若く健康でありたい」と言う万人の夢の実現を促すのは非常に良い哲学です。

#### 整理番号77

クローン技術は、人の尊厳を守り、医療という「人を殺すのではなく、助ける尊い技術」という観点において、自由に研究、使用されるべきだと思います。

人の命が、単なるお金儲け、経営のみになってはならないと思います。

医療とは、本来すべての命に、平等に、いつかは無償でつねに最高の技術が施行されるべきです。

そういった意味での研究は、大いになされるべきだと思います。

最高の知性をもつたは、つねに最高の技術を生み出し、使い、すべての人を助けてきました。

どんな新しい技術も、それを忘れず、ベストを尽くしてください。

#### 整理番号78

##### ヒト胚技術開発賛成意見

現在、科学の力はすさまじいものがあります。

先日テレビで見たのですが、高田延彦さんと向井亜紀さんは体外受精で健康な赤ちゃんを二人も授かりました。昔でしたら子供がないままだったでしょうが、生まれたときの感動はわたしたちにも伝わり、涙が流れてしまいました。まさに科学は神様であり、愛なのです。クローン胚では臓器、各身体の一部が創られ、身障者や病気のヒトを治療することが出来ます。病気になったら苦しみが伴います。

私達は現在科学の恩恵のお陰で生活しています。テレビ、冷蔵庫、レンジ、洗濯機、車、等… 包丁は毎日美味しい料理を作る為に使われていますが、ヒトを殺すことも出きるのです。殆どの人は良いほうに使っています。車も事故で死ぬ人がいますが、利用する人は増えています。技術は悪いことに利用出来ないよう法律をもうけたら良いと思います。

科学は人類を救うことが出来るのですから、是非、この技術を研究して頂きたいと思います。科学を恐れないで欲しいと思います。以上

#### 整理番号79

「ヒト胚の取扱いに」賛成です。

この新しい技術を禁止して、科学的発展を遅らせることは、難病に苦しんでいる人達の生きる可能性を捨てるようなもので、とても悲しいことです。まさにその事が、「倫理的に問題」であると考えられます……。苦しんでいる人達を助けようとする事に、倫理的問題があるのでしょうか？その技術をSTOPさせるこ

とが、倫理的に良い事なののでしょうか？そういう意見を言う人達は、きっと自分及び家族が病気に苦しんではいない、健康で、ラッキーな人たちなのでしょう。

#### 整理番号 8 0

人胚の研究に賛成です。なぜなら、人胚の研究はあらゆる病気を克服できる可能性を持っているからです。誰も健康で長生きをしたいはずですが、しかし、何もしなくても老化等により体は衰え病気になり苦しみながら死んでいくしかないので。それを遅らせ、より健康な状態を長く維持しながら長く生きることを可能にする可能性を持っているのがこの人胚の研究だと思うからです。私の母は病気ですが、私には何もできないのです、ただ苦しんでいるのを見ているだけなのです。父は病気で亡くなりました。どうぞ、病気で苦しみ悲しむ時代が過去のものになりますように、医学の進歩にイエス、科学の進歩にイエスと言いたい。

#### 整理番号 8 1

私はクローン技術に対しては賛成しています。

クローン胚の研究によりさまざまな病気の治療に役立つからです。世間は倫理面で反対する人が多くいますが、もし自分が病気になりクローン技術を使えば治す事が出来るとなれば、多くの人がそれに頼ることになるでしょう。自分の最愛の人や子供・孫がそうならなおのことでしょう。私は素晴らしい技術だと思います。人を殺す技術（核兵器など）は良くて何で人を助ける技術がダメなのかが理解できません。ただまだまだ解らない事が多いので研究をする事は大切ですけどね。

#### 整理番号 8 2

科学技術はいつでも中立の立場にあると思います。それを使う人次第で凶器にも人の命を救う道具にもなります。そして人間の生活は科学のお陰でプラスの方向に豊かになってきました。新しい科学技術を探求したいという人間の好奇心を邪魔することは出来ないと思います。ヒト胚を含む科学技術を正しい方向に利用し続ける法律や悪い方向に利用することを禁止する法律を整備することこそ大切です。私たちが知らないうちに恩恵を受けているこの科学技術のすばらしさに目覚め、意識して生きることにより、飛躍的な世界が訪れることを確信しています。

#### 整理番号 8 3

##### ・余剰胚の研究利用について

現段階で生殖補助技術により余剰胚が生じることが避けられないことであるのなら、その研究利用はヒト受精胚を使用するより他に代替手段がない場合に限られ、かつ研究による恩恵が多大なものである場合のみ認められると考える。余剰胚の研究利用には公的な審査機関に申請し、承認を得ることを必要とする。研究者は研究目的や研究結果を報告する義務を負う。ヒトの尊厳を保ち、ヒト胚を生命の萌芽として最大限保護するため厳しい審査を必要とする。また、研究利用する場合には提供者に十分説明し、同意と理解を得た上で行われねばならない。審査機関には生命科学の研究者、法学者など多様な立場の多様な意見を持つ者を審査委員として置く。あらかじめ、どんな難病治療の研究には利用を認めるかなど機関として一定の方向性は打ち出しておくべきである。

##### ・研究目的の新たな受精胚作成について

研究目的の新たな受精胚作成については認められない。滅失、棄損してしまうヒト胚を作成することはヒ

トの道具化につながると考えられるからである。ヒト胚の尊重と生命科学や医療技術がもたらす恩恵は秤にかけられるような問題ではなく、生命科学や医療のもたらす恩恵のほうがヒト胚の尊重より大きいため作成、滅失、性質転換が認められるという理論は成り立たない。胎児とヒト受精胚の倫理的価値はヒトになり得る存在として同等である。研究目的での胎児の滅失、棄損を伴う胎児の育成は許されるはずがなく、ヒト受精胚でも同様である。

・ヒトクローン胚の作成について

ヒトクローン胚とヒト受精胚はどちらもヒトになり得る存在として同等である。したがってその倫理的位置付けも同等でなければならず、研究目的のヒトクローン胚作成は認められない。クローン技術規制法によりヒトクローン胚の母体への移植が禁じられているためヒトの誕生は想定されないが、それによりヒト胚の価値に差が生じるものではない。

整理番号 8 4

(総論)

事実を隠蔽し、社会を置き去りにし、患者のけつていを誘導して、際限なく技術を進ませる先端医療の専門家はもういない。医学の進歩によって失ったのは身体感覚であり、自然への畏怖、畏敬であり、そして人のぬくもりである。この暴走機関車（ヒト胚利用）がやめられないなら、ついに社会は止まるだろう。取り返しのつかない無秩序を生ませてまでの「自由」などない。京大を中心に進められる専門家支配を許しては 7 3 1 部隊の浮上となる。

(各論)

-遺伝子診断-これまでの遺伝子診断・治療は事実として、単一遺伝子病から多因子病（慢性疾患）まで対象は拡大されてきた。ひとたび許せば際限なく対象領域が広がってしまうことを「すべり坂理論」と呼ぶ。「受精卵診断」もそうである。診断は「人名」を殺し続ける。受精卵診断で異常なくとも出生前診断で以上有り、中絶になった事実あり。(海外事例) 体外受精は多胎妊娠・減数手術でまた人命を殺す。低出生体重児も産まれやすく、NICU（新生児集中治療室）の効率運用や新患児の受け入れのため、回復の望み少ない患児を殺し続けるかもしれない。胚選別によって特定疾患の患者が産まれてこなくなれば、同じ疾患を持つ生存者は「専任医消失」に困難する。

(医療アクセス権収奪) つまり胚選別だけに終わらないのである。(反対)

-ES細胞-ヒト胚に全能性有り、それはヒトES細胞も同じだ。(細胞工学 平成14年8月号秀潤社発行 833 頁より 輸入ヒトES細胞を使ってのイン・ビトロけんきゅうで栄養膜《胎盤になる》分化を発見) この事実を照らせば「多能性」を前提にした指針はふっとぶ。つまり不妊治療の素材（胚）になるし、クローン人間（キメラ人間）もつくってしまうのだ。(理論上) 海外ではヒトES細胞から卵子に分化した事例もある。「全能性」を認めて、この事実に基づいた説明とES研究の中止が急務だ。国民を騙して卵を取るのは犯罪。説明しないで研究を進ませる専門家は万死に値する。(脳死女性の身体に胚着床させ、身体管理《心肺死先送り術》を良くすれば、妊娠・出産《クローン・キメラ》を誘導させることは理論上、可能だ。(バイオ・モート研究では知られている。) 絶対こんなことは許されないのだ。

整理番号 8 5

ヒト胚を用いた研究によって医学が進歩すれば、そこから得られる恩恵はとても大きい、その一方で人の生命の萌芽を踏みしめることにもなる。ヒトと、まだヒトになっていないものとを比較すれば、ヒトのほ



うが尊重されるべきということになるのかもしれない。しかし、ヒト胚はヒトになる可能性のあるものである以上、恣意的に利用されるようなことがあってはならない。

胚はヒトではないにしろ、人の生命の萌芽であるから、人の尊厳の問題と深く関わってくる。人の尊厳を尊重しすぎると、精神的自由の中に含まれる研究の自由が制限されてしまう。この二つの権利のぶつかり合いをうまく調整していくことが必要であるが、研究の自由も無制限というわけではなく、公共の福祉により、制限されるものであるから、法律による規制も十分な理由があれば、やむをえないと思われる。学会などによる自主規制や拘束力のないガイドラインなどでは、研究の暴走を本当にとめられるのが不安である。やはり、拘束力のある法律による規制が必要であると思われる。

次に、人クローン胚であるが、私個人としては、自然に反した方法でヒト胚を作るということは、間違っていると思うし、人間の踏み込むべき領域ではないと思う。クローン胚を作ろうなどということは、人間のおごりではないかとさえ思う。

私は、人クローン胚の作成はクローン個体の作製につながる危険性があり、人クローン胚の作成は禁止されるべきであると考えている。それに、現在、クローン技術はまだ社会的に理解・容認されているとはいえない状況である。このように、社会の理解よりも、科学技術が先を行ってしまっているような状態では、社会の大勢の人々の意見が反映されるとは考えにくい。やはり、社会の理解が追いつくまでは、人クローン胚の作製は禁止するべきであると思う。

ヒト受精胚、人クローン胚に通じていえることであるが、法律で規制する際には、人間の尊厳と学問研究の自由という二つの権利が衝突するため、この調整を行う必要がある。そして、これはいろいろな角度から考えるべき問題であり、科学者だけではなく、様々な立場にある人々の意見が反映されるべきである。社会の認識が形成され、社会的にこのような生命科学に対する一貫した考え方ができあがることが重要である。

#### 整理番号 86

私はヒト胚の研究を含め、あらゆる科学の研究に賛成です。でも科学技術を利用する場合、人間に危害がないか、地球環境に影響が出ないかどうか、よくよく調べる必要があると思います。

歴史を紐解くまでもなく私たちは「科学する力」によってさまざまな恩恵を受けてきました。古くは電燈、蒸気機関、近年ではパソコン、携帯電話……。でも残念ながら負の遺産として原子爆弾、化学兵器等も存在しています。科学はいつの時代でもニュートラルなので、要はその科学技術が人間に幸福をもたらすか、逆に不幸に追いやるか、よく吟味することだと思います。そこで懸案のヒト胚研究ですが、これは素晴らしい技術だと思います。この研究が進めば第一に拒絶反応のない臓器をつくることができますし、美容や延命にも応用が期待される技術だと思います。是非論をしている時間もないくらいに急がれる問題だと思います。国を挙げて速やかにヒト胚研究に邁進されることを望みます。

#### 整理番号 87

ヒト胚の取り扱いをどうすべきであるのか。私は科学・医療の進歩のため、積極的に認めていくべきであり、そして、人間の尊厳を守るために、法による規制が必要であると思う。確かに、ヒト胚の扱いを一步間違え、人間に対して悪用される可能性がないとは言い切れない。むしろ、そうなってしまう可能性が高いであろう。

あくまで映画の中での話であるが、スターウォーズでクローン人間を大量に製造し、そのクローン人間たちを軍人として教育し、軍隊を形成するというシーンがあった。実際にこんなことが行われたらたまったも

のではない。また、クローン人間が現れるとしたら、彼らの人権の問題や、同じ人間が複数存在するなどの問題が生じてくるだろう。人間に対してクローン技術が使われることがあってはならないのだ。

しかし、ヒト胚の研究の成果としての医学の発展により、現在不治の病といわれている病気が治せるかもしれないことを考えると、ヒト胚の研究は必要であると考えられる。その研究を進める上で、誤った方向に進ませないためにはどうすべきなのか。

今現在わが国において、法律によって人権がはじめて生じてくるのはある一定の条件における胎児の時だ。民法第1条の3によると、私権の享有は出生に始まる、とある。胎児の特例としては、民法第721条 胎児は損害賠償の請求権については既に生まれたものとみなす、民法第886条 相続については既に生まれたものとみなす、などの規定が見られる。それ以前の段階であるヒト胚については何も規定されていない。ヒト胚に対して人権を与えよう、とはいわないが、モノでもなくヒトでもないと考えられるのだから、独自の規定が必要となるだろう。

その規定を定める際に、ガイドラインにとどめるべきなのか、それとも法律によるべきなのか、私は前述の通り、法律による規制が必要であると考え。というのも、確かに法律で研究を規制してしまったら研究の自由が侵害されるという意見もでるだろう。しかし、悪用の危険性が残る以上、罰則等の定められないガイドラインによるべきではなく、しっかりと罰則を定めることができ、悪用を未然に防ぐことが出来るような法律を定めるべきである。

研究との兼ね合いは難しいだろうが、医療を最大限進歩させることができ、かつ人間の尊厳を保つことの出来る最終結論を期待したい。

#### 整理番号 88

2月8日に東京で開催されたヒト胚に関するシンポジウムに参加させていただきました。会合を21回重ねても、委員の方々の意見の統制がとれていないというのは、問題の難しさをあらわしているのだと思います。ヒト受精胚を研究目的に使用することに関して、動物実験でまだ安全性が確認されていないという意見と、すでに確認されているという両極端な意見が対立していると理解しました。人間も動物である以上、モデル動物というものをつくることからして、倫理的に許されないことかもしれません。生物・医学などの分野では、モデル動物を実験に使うことが日常茶飯事に行われているというのが現状のようであり、本題からそれることなので、この議論はさておき、国民に意見を求める前に、以下のことを明示して下さるようお願いします：

1. どこまで研究が進めば、動物実験で人間への応用の安全性が確認されたといえるのか
2. すでにどこまで研究が進んでいるので、安全性が確認されているといえるのか

法令による規制は、罰則を伴って何らかの形で取り入れるべきだと考えます。科学者は、頭脳明晰で、もしかしたら優れた人格の持ち主かもしれません。しかし、やはり人間であり、過ちを犯してもおかしくありません。また、手じかにあるものはその重要性を無意識のうちに軽視することが多々あると思われま

#### 整理番号 89

ヒト胚に関するシンポジウムに参加するまではこの事の研究の段階も重要性もそれほど多くの問題を抱えているとは思わなかった。科学と宗教この対立する物の観方をヒト胚研究の上では一つにしなければならない。先進諸国でも違いがあり難しい問題だといえる。

シンポジウムに参加する前はS F的（サイエンス・フィクション）ファンタジー的発想から早くヒト胚研

究が進んで臓器を自分の胚から作れば適合性も良く難病も克服できるのではと安易に考えていたのだがヒト胚はそれほど簡単には取り扱ってはいけない人の萌芽なのだということを認識できた。

S F 的発想の源はアメリカの翻訳本によるところが多いが日本ではより多くの国民の意見が必要だと思うのもっとマスコミや地方自治体が意見交換会を行うべきだと思う。

その前にこのシンポジウムの内容を私同様これまで良く知らなかった人々に公開することが必要だと思う。日本の法律は法律の点でも一度決めたことを変えると多大な歳月を要するので法改正もままならない。その間に科学の発展を拒むこともできる。

ヒト胚研究の特殊機関が必要である。政府管轄の機関を設けるのはどうか。そこで研究に携わるものにはその資格が本当にあるのか審査すべきで倫理的基準にも入れたらどうか。

これだけ多くの医療過誤事件が起こる現在すでにクローン胚研究の知られざる研究が日本のどこかで行われている可能性のなきにしもあらずという懸念があるのにはずいぶん前にクローン人間を作ったという週刊誌の記事の記憶があるがそう簡単にはできないと一蹴されたのではないか。日本では宗教は種類も多く十人十様といえる。今週我が家を訪れた宗教勧誘団体は2件。

エホバの証人と朝起き会というもの。娘は幼稚園も中学、高校とプロテスタントの女子校へ通い、短大、大学とカトリックである。今、キリスト教研究会に入っている。私は祖父母が早く死去したので法事で足繁く寺へ通い、大学は仏教系で結婚式は神主さんに取り入れてもらい、子供のころは友人に誘われて近くの教会の日曜学校へ行った。

日本国民は無宗教の人も多いが宗教的な説教はよく耳にするところだ。このシンポジウムでは委員の宗教観、立場も異なるのだが大きな違いは多数決で解決するか疑問です。

#### 整理番号 90

倫理というものは個人が独自に持つ倫理観から構築されるものであり、“ヒトの生命とは”を討議してそれを定義し、規制をつくるということは理想に過ぎず、現実的ではない。我々は現実の中で生きているのであり、その中で起こった現実の問題について討論しているのであるから、理想を追ってそれを主張することはただただ時間の浪費を重ねてしまう恐れがあると思います。

私を含めた難病を持たない人々はそうでない人々と異なり、事の本質を見失いがちのように感じる。我々は倫理、宗教、社会問題を真っ先に取り上げるが、“難病を治療する”ことがヒト胚を利用した研究の“究極の目的”となった背景の根本には“難病患者自身の心の訴え”があり、それこそが“難病の治療”を“究極の目的”たらしめているのである。我々はまず、彼らの心の訴えに直面すべきではないだろうか。法律家の方々も倫理学者や研究者の方々も、まず問題の本質に直面すべきである。“難病を治療したい”または“治療につながる研究をしたい”という思いは、金儲けや自己満足のためではなく心からくるものであり、またそうあるべきである。今回のシンポジウムのパネリストの方々やこれに参加された皆様に限らず、すべての人々にとって、“心から難病患者を救いたい”という気持ちは共通しているものだと思います。私は、ヒト胚を使うべきか使わないべきかという問題が大事は問題であることを深く認識していますが、しかし、われわれはこの問題を考えていく前提として誰もが“究極の目的”に常に積極的である必要がある、と思います。

#### 整理番号 91

ヒト胚を利用した研究はガイドライン規制は時期尚早である。

ゆえにそうした研究を促すガイドラインや規制を作るには、まだ十分な議論がつくされていないので、今

後も十分な議論をつくすべき。

ヒト胚の研究は再生医療などの多くの応用の可能性が考えられ、社会にとっても有用と考えられる。しかし、いまだ動物実験レベルでもその程度は低く、組織発生メカニズムもまだまだわからないことが多い。もう少し動物実験を続け、その有用性が確認された段階でヒト胚操作を許すべきかどうか、許すとしたらどのような条件で許すのかを決めるべきと考える。

#### 整理番号 9 2

諸先生方のご専門的な、熱心なお話を拝聴し、この問題に対する各界の意見、考え方がいかに複雑多岐であるかを実感いたしました。非才の身であり、一個人として考えるとき、常に考察されることは、市民（国民）の安心であろうと思っています。そして、安心のもっとも基盤的な要件は健康の維持増進に他なりません。今、喜寿を過ぎてみれば尚更です。身近なことで申し上げれば、痴呆で歩行も困難で介護を受けている身内を思うとき、それを治療する良薬はないかと思い、若し、ヒト胚の研究が進み、その悪化をとめることができれば、国民の大いなる福音となります。社会も明るくなり、経済的にも大いに貢献するばかりでなく、家庭の空気は一変することでしょう。国民病といわれる糖尿病に対する治療にしても、ヒト胚治療ができればと思うこと、切なるものがあります。

然し、病を治療することであれば、人権（人の尊厳）を宗教的、倫理等の論理的障壁が、少なからずあることは、以前から承知していた心算でしたが、今回のシンポジウム、実に大きな問題であることを痛感しました。

ヒト胚に関する問題は、いいかえれば、人の尊厳、人の生命、倫理、医学、生物学、哲学、経済等実に多角的になるとのことに実感しました。中間報告が国民の幸福追求に対し、実に多きものにすることは、人類学的課題でもあります。私は積極論と慎重論の中間的妥協的な考え方をたくして持つものではありませんが、両者の論ずるところの折衷案は、如何かと思っております。足して2で割るのではなく、積極論と慎重論の双方の長所を採用し、両者を高次元的に止揚して、両者をいわば質的に向上、発展させる方途を導き出してほしいと願うものです。諸先生方の英知とともに、行政当局を含めた御英断を強く、要望するものです。日本と英国の法律に対する考え方が開陳されておりましたが、日本も英国式に早期に対応を打ち出し、且つそれを果敢に実行することです。決して無謀さと、言うものではありません。人知を盡くすことで、仮に望ましい結論に至らなくても国民は決して非難等はないものと、私は信じております。

医術は、最高の人間尊重の道であると私は思っております。世界に先駆けて、有効な実りの多いヒト胚の進展することを願うものです。又、諸先生方の努力により、必ずや、達成されることを確信するものです。

#### 整理番号 9 3

自分自身の日常に生じた疑問をミステリー小説にと、日夜想像をめぐらせている主婦です。この度はシンポジウムに参加させていただきましてありがとうございました。

帰り道で思い出したのは、第2次世界大戦以前には庶民の間に存在したと言われる“間引き”という新生児殺しのことでした。たぶんその頃には、命を尊重されるためにはある程度月日を経ないといけなかったのでしょうか。一方、別の立場として例えば輸血を拒む宗教があります。それはDNAという、一般には言葉でしか理解できない原素の中にすでに生命の宿りを感じているからでしょう。

ふたつの事例を左右に置いて、どちらが個の尊厳を持つかと考えることは理に適ったことでしょうか？

単に昔は現在を大事に思う人達—共同体の一員として生きそして死んだ大勢の先祖達の過去に支えられた

現世実感は、自然から生じたものを自然に返すという個と個の境界のあいまいさで成立していました—ばかりだったというだけで、それでいくと今は未来というまだ見えぬ先の時代を大切に思う人が増加した、だけのような気もしてくるのです。

それは前者に対し慈想心の有無を問うことや、後者の一般的同調精神に甘んじないある意味融通のなさを取り上げて論じることとは違うのです。もっと大きな歴史の流れのようなものに答えがあるように思いました。

ひとつの水槽の中で揺らせた水が、一方から一方へとなびき続けるように、何かをすることでその結果生じた問題の善否を検証しながら次世代に命をつなごうとするのが私達人類なのではないでしょうか。

つまり、遺伝子治療によって救われる人達がいる限り、世界はその可能性を追求するでしょうし、日本だけが遅れを取るわけにもいかなくなるでしょう。

となると、未分化な命の議論—どこから人と呼べるのか—はあとに残したままにしてでも、前進するしかないのがヒト胚問題ではないだろうかとは私は結論しました。

#### 整理番号 9 4

私は、中間報告書記載の西川伸一委員の御意見に賛同致します。

特に、社会的に見て、弱者の立場になりがちな難病患者の立場を代表した「委員」が必要ではないかと考えます。例えば、パーキンソン病の場合の、米国のマイケル・フォックスであり、モハメド・アリでしょうか。私の場合、現役の商社マンであり、5年前ぐらいから患者ですが、軽度な方であると診断されていても、この苦悩とQOLの低下には、本当にまいっております。難病患者の方には、高齢の方も多く、また、私のような現役でも、公開リスクを考慮すると、なかなか、声を挙げにくいところですが、必要とあらば、匿名を解除頂いても結構です。

なお、母校の位田先生の「きちんとした議論がなされていない。」との御指摘は、気にかかります。以上

#### 整理番号 9 5

##### 中間報告に対する意見

私たち日本せきずい基金は神経再生研究の促進を目的に設立された脊髄損傷者団体です。中間報告には多くの論点がありますが、①難病などの治療目的の利用と、②研究目的での作成の2点に絞って、ヒト胚の研究利用に賛成します。

1. 難病などへの治療目的での利用について：脊髄損傷はわが国では毎年5000人以上発生し、総数で10万人以上に達していますが、その治療法はこれまで存在しませんでした。しかし神経再生研究の研究に大きな期待を寄せています。また、「ヒト胚研究をできる難病の疾患名を特定すべきではないか」、という意見もありますが、疾患名を特定しヒト胚の利用を認めることは、難病治療研究そのものに大きな制約を課すことになり、賛成することはできません。

私たちはこの日本で、科学性と安全性に基づいた臨床研究が着実に前進することを願っており、治療目的のヒト胚利用を認めるべきである、と考えます。

2. ヒト胚の研究目的での作成について：ヒト胚の研究利用が、あたかもパンドラの箱を開けるかのような論調には、この委員会で「公的審査機関の設置が必要である」、とした審議経過に照らして疑問を覚えます。ヒトES細胞は現状では様々な課題があるが、再生医療への応用価値が大きいこと、そのための「ヒト・クローン胚」は生物学的にはヒト受精卵と大きく異なること、が専門委員によって指摘されてきました。

「ヒト・クローン胚」で研究しなければ分からない問題が、医学研究には数多くあります。「ES細胞指針」では、一定の条件でES細胞の作成・利用は認められていますが、それは医学研究上の有用性を認めたからに他なりません。

すべてを無制限に、科学者の知的好奇心に委ねるべきであるとは、私たちは考えておりません。その利用は治療目的に限ることや公的審査会の設置など、人々が納得しうる社会的な枠組みを提示することがこの委員会の使命である、と思います。また、研究者には科学的エビデンスや安全性だけでなく、ネガティブ情報の公開などの説明責任を果たすことなど、今以上の社会的責任が求められています。こうした前提に立って、私たちはヒト胚の研究目的での作成の承認を求めます。

## 整理番号 96

### (1) 「ヒト胚」について

辞典によれば、胚とは“卵または種の内部で、ひなや芽になる小さな部分[新明解国語辞典]”と説明され、生物一般の生命のもとに違いない。もう少し具体的に言えば、イネの種子の胚に当たる部分を指しているわけである。つまり発芽や発根の実態部分であるから、いくら受精した卵の成長過程とは言っても、ヒト胚は人そのものとは認められないのではないか。植物や微生物の増殖過程と同じ生物発生と考えるべきであって、それだからこそ人に成長する特異性を研究しなければならないと思う。

一方では人の健康は適当な休養、栄養、運動とそのバランスの上に成立するとWHOなどで言われているが、それを人の持つ60兆とも言われる細胞の健康に置きかえてみて、弱ったり老化したり分裂をやめたりして不活性になった細胞の活性化や代謝機能の研究とあわせて、細胞内部の研究——例えば細胞膜やミトコンドリアやあるいはゴルジ体などがどんな働きをしているか、その機能をヒト胚が成長するときどんな方法で獲得してゆくのかということが明らかにされてゆく必要があると考えるので、ぜひ自由な研究を展開して欲しいと思います。

### (2) 生命倫理とヒト胚の研究

結論を先に言ってしまうと、「ヒト胚」と言われれば倫理の基準が不明確で、その確立は難しい。従って倫理の確立のためにも、「ヒト胚」についての研究者の扱い方が自由で公開されたものでなければならない。どのような「ヒト胚」の扱い方が、人でなしの発生に繋がり、自然選択（旧称の自然淘汰のこと）の道から外れるのかを十分に観察されなければならない。

例えば男女の産み分けを、生殖細胞と体細胞に分化したヒト胚によって選別することは、やがては社会の男女のバランスを崩す結果となり好ましくない。倫理はやはり研究者や取扱い者のガイド・ラインを決めなければなるまい。男女の性別よりも丈夫な子供の出産を促す「ヒト胚」の研究に焦点を合わせるような社会倫理が必要になってくる。

一方では人の社会活動から薬害や公害、果ては原子力被害そして地震・火山爆発などで生ずる自然災害が、人の細胞の不活性や障害を来たした場合に、「ヒト胚」の研究がどこまで役立つかを促進する生命倫理を確立して欲しいと考える。—以上—

## 整理番号 97

このシンポジウムは、多くの人の関心と興味を引くことができ成功だった。

1. 政府の主催のイベントは、なぜ偉い人ばかりから構成されているのか。
2. 教授や所長など長ばかりで、発言がすべて保守的にならざるを得ない。

3. ほんとうに、ヒトの胚性幹細胞をやっているのは、井村先生だけだ。
4. 研究者の立場から言えば、もっと若い人、助教授クラスや主任研究員クラスを入れるべきだ。
5. 一部の発言者（勝木先生、島藺先生など）に、抽象論が多い。もっと実際的な議論をして欲しい。
6. 倫理的な理想的なものと治療など現実的なものを、できるだけ分ける。
7. 現在、どの病気とか、どの分化細胞とかについて、何をしたいのか、何をしたいのかをはっきりさせる。
8. 生命倫理など時間をかけるものは別にやり、後で整合させる。
9. まず、ガイドラインで5年ほどやり、のち法制化にもっていくのが実質的だ。
10. 法律家は、まったく時間的な観念のない業界の住民だ。かれらが全て多発性硬化症にでもなれば、すこしは現実に目が覚めるだろう。
11. この細胞に関しては、動物実験には、限界があり基礎的な知識の収集にしかない。昔から15%は役に立つという意見と無駄という意見がある。ネズミがヒトの多発性硬化症にはならないからだ。
12. 最後に、藤本先生の発言された、既に10万人の実績がある体外受精にしても、当時の東北大学の鈴木先生がイギリスでの成功をみて、助教授を派遣し、技術を教えてもらっただけだ。日本人にイニシアチブのある仕事ではない。
13. 韓国でも、公認されたヒト幹細胞は既に5個あり、アメリカでは、この細胞を売っている会社がある。わが国唯一の京大（井村先生）の細胞は、状況がはっきりしていないので、日本の製薬企業もこの会社から買っている。
14. 現代では、どんなイノベーションも、競争からは逃れられない。ヒト胚性幹細胞の研究は、今世紀最大の医学生物学の課題だが、こんな状況では、わが国の若い研究者がやる気をなくす。いい研究が出ない。最悪となる可能性がある。
15. この会議は、黒川先生、高久先生、町野先生あたりを中心に、かつ若手を入れ、NIHのガイドラインを手本に推し進めるのが良いと思う。あとの先生方は、ビビりまくっていて、議事が進まなくなるのは明確だ。
16. 研究者、医者は、1日でも早く拙速でよい決断を待っている。

以上

#### 整理番号98

糖尿病1型です。再生医療実現のため、クローン胚の医療目的の研究を認めてくださいお願いします。

#### 整理番号99

私は、平成13年10月にモトクロスの練習中に転倒して頸椎の2～3の圧迫により人工呼吸器装着、四肢マヒの状態、毎日、ベット上の生活を強いられています。唯一の望みはパソコンからの脊損の治療の進歩の情報を得て、自分にもそのチャンスが来て、回復できることです。今回の治療において、提供される側としては、進んだ治療を受けたいと思います。自分の体で自分の体を動かすことができない苦痛。リハビリは、続けているものの動かない重い体。食べること、排泄、等、すべて介護が必要な状態です。このような脊損者にとって、今回の治療は、何よりも朗報です。私だけでなく、この苦痛は、家族にとっても同じです。これを理解し、考えてくれる人は、どれだけいるのでしょうか。この治療に反対する方々がいると思います。その方々は、脊損患者のことを理解しているのでしょうか。又、今までに必要ななくなった受精卵は、どうなっ

ているのだろう。どのように、処分されるのだろうと、疑問に思わないのだろうか。私が、提供者だったら、自分たちに必要なくても、その生命力を必要としているところで使われるのならそれに、こしたことはないと思っています。人間として、成長した場合を異なり、人間として、成長していない細胞と考えれば、破棄されるより再生医療として必要とされているところに使えるようになることを望みます。

#### 整理番号 100

ヒト受精胚やクローン胚の研究について規制するべきではありません。日本だけでも何十万人という難病や不妊症などで苦しんでいる人たちに対して倫理的な問題だからという理由で研究を規制すると言えるでしょうか？これらの苦しんでいる人たちのためにも、ヒト受精胚やクローン胚取り扱いを制限しないようにすべきです。ヒト受精胚の位置づけを「人の生命の萌芽」と位置づけ尊重されるべき存在とされていることに異論はありません。しかし「人の尊厳」の観点から言えば難病や不妊症などに苦しんだり、病気で命をなくそうとしている人々を前にして研究に規制をかけることは「人の尊厳」と言えるものではありません。それは抽象的で誰にも明確に説明できない倫理観というものを命よりも優先するということで、本末転倒なことです。

研究を制限すれば、生み出される無限の可能性と人類への恩恵を否定することになります。過去の歴史でも自動車などが発明されたとき、高速で走ると脳が壊れて危険だからとかの非科学的な理由で人々はその発明を否定しようとした話があります。しかし現在、国内だけで年間数千人もの交通事故による死者が発生しているというのに、倫理的に問題だからという理由で自動車が禁止にされることはありませんし、自動車の研究はなお盛んです。また原子力利用の例では、原子力発電所の事故による死者が世界で数十人であるのに対して、火力ボイラーでは爆発事故の死者が累計して世界で数万人という歴史があります。それでも危険だからという理由で火力ボイラーではなく原子力利用を反対する人が多いですが、「危険だから、判断がつかないから」という理由で新しい技術や科学やその恩恵を否定しようとする構図は同じように思えます。

倫理観とか道徳観というのは宗教とか慣習で作られたもので歴史の中で常に変化してきています。これからも変化していくことでしょう。人間の知性とは科学技術の恩恵を選択、利用し、コントロールすることだと思います。しかし、科学技術の恩恵を否定し、利用せず、コントロールすることを恐れて最初から制限したり放棄することは、人間が知性を放棄することに他なりません。危険ならばそれを安全にコントロールするために良く研究し、知恵を働かせ、利を得るとするのが人間の営みだと考えます。

生命を絶対的に尊重することは倫理の基本であり、世界共通なものです。文化の違いなどで変わるものではありません。世界各国の倫理観はカトリック教会に大きく影響されています。未だに避妊法やマスターベーションを否定しているような非科学的な思想を持つカトリック教会の影響を受けて各国が生命倫理を扱っています。しかしカトリック教会の教えは矛盾に満ちたものであり、カトリック国でなくてもそれに同調することはマイナスとされます。日本の主流の仏教の教えは生命を尊重し、生きているもの全てを慈しむことで、優れた医療技術で命を救うことと同じです。命を救うことよりも人胚を聖域にして手をつけないことではないと私は考えます。

#### 整理番号 101

1. 報告書ではヒト受精胚を「人の生命の萌芽」とであると述べられているが、これだけでは意味付けとして不明瞭であるように感じる。問題は、ヒト受精胚に「人の尊厳」をいかに与えるかという点であって、この定義ではそれに対する本質的な答えは得られない。さらには、報告書全体で何をもって「人の尊厳」とする



かという点が十分に意識されていないように感じる。報告書で見られる意見の食い違いを生み出す要因の一つが、この不明瞭さではないかと思う。

報告書を見るに現時点では、既存の哲学的・倫理的考え、研究者の考えなどを踏まえて、見識のずれを是正しようという方向で話が進んでいるようである。しかし、生命科学そのものは現在急速に進歩しつつある。我々の倫理観はその進歩と常に呼応し、相互に触発し、新たなヒト受精胚の姿に見合った「人の尊厳」の意味を築きあげねばならない。既存の考えを軌道修正だけを行う、消極的な態度では適正かつ明確な倫理基準は実現できないと感じる。研究者も非研究者も自身の考えの枠にとらわれず、新たな視点からヒト受精胚を位置付けなおす姿勢を保つことが肝要ではないだろうか。

2. ヒト受精胚や特殊胚の研究に関する生命倫理的指針として、学会のガイドラインによる自主規制のみでは不十分である。少なくとも、国のガイドラインによる規制が必要であると思う。というのも、学会自身のガイドラインだけでは、研究者よがりの指針になることが免れられないことが容易に想像できるためである。ただ、国で法律やガイドラインを定めるにしても、そこで生命科学に対する十分な理解と的確な問題意識が不可欠である。不十分な理解の下では、思わぬ点で研究者の自由を損害しかねない。法やガイドラインは、結局は科学研究を適正に促進していくものでなければならない。したがって、研究者側が積極的に説明と情報開示を行い、そして研究者以外がそれらの価値を認め、関心をもち、理解に努めることが肝要である。そのような「学際性」を各分野の人が再認識し心がけることが必要であると思う。

3. 報告書で少し述べられている、「生命倫理に関する独立した検討組織」については、設置する価値があると思う。尤も、それにより即座に何らかの具体的な結論が導かれるとはいかないかもしれないが、上に述べた、研究者と非研究者との見解の相互理解・共有のためのきっかけにはなり得る。

## 整理番号102

### 1. 報告書全体に関する問題点

(1) 勝木委員の意見書(p. 50)に「生命倫理調査会は総合科学技術会議に属しており、同会議では再生医療の研究推進も行っている」とある。では、調査会では中立的な議論がそもそもできるのか？研究推進という結論が先にありき、ではないのか？

この問題は調査会やその報告書の信頼性に関わる重大な問題であり、公開シンポジウムやパブリックコメントを行うことの意義まで疑わざるを得ない。

(2) 平成14年12月の首相官邸BT戦略会議『バイオテクノロジー戦略大綱』p. 65には「ヒト受精胚の人の生命の萌芽としての取扱いについての検討を進め、その結論を得る。〔実施中、平成15年度達成〕」とあるが、年度末までに最終報告書として確定するつもりなのか？

この報告書は表題の通り「中間報告書」であり、今後、最終報告書に向けて十分に議論を重ねていくと期待するが、時間切れで議論が不十分なまま最終報告書がまとめられることを危惧する。

### 2. 各論的な問題点

(1) p. 16以下に散見される「委員の大多数」「多くの委員」「多数の委員」「大多数の委員」「委員の大勢」とは、誰を指すのか？なぜ委員の氏名を出さないのか？

また「大多数」「多く」「多数」「大勢」とは、いったい何人のことか？調査会資料「調査票実施状況」にはアンケート結果が記されているが、報告書本文にも、あいまいな表現でなく正確な人数を記すべき。

(2) ヒト胚を用いた再生医療の可能性を、具体的に数値で示されたい。たとえば脊髄損傷の患者を一人治療するのに、どのくらいの数のヒトクローン胚を滅失する必要があると見込まれるのか？ヒト胚からヒトクロ

ーン胚が作成できる確率、ヒトクローン胚からES細胞が樹立できる確

率、ES細胞から神経細胞を誘導できる確率、治療に必要な誘導神経細胞の量、などの試算を示すべき。

(3) 着床前診断に関するp.21の記述に「極めて重篤な遺伝性疾患以外のヒト受精卵の選別は、優生主義につながるものであり、許されない」とあるが、「極めて重篤な遺伝性疾患」の因子がある受精卵を選別し廃棄することならば優生主義につながらないといえる根拠はいったい何か？障害者団体等の根強い反対がある以上、親が着床前診断を受けることを「個人の幸福追求権」と言い切れる根拠を、明確に説明すべき。

(4) ヒトクローン胚の作成に必要な未受精卵は、誰から、どのように提供してもらうのか？位田委員の意見書にあるように、ヒト胚および卵子等の提供についても詳細に議論し報告すべき。

### 3. 形式上の問題点

(1) 結論のポイント、とくに、これまでの指針等の方針とどこが、なぜ、どのように変わったのかが一目でわかるよう、最初に要約をつけるべき。

(2) 最後の付録は参照しにくいので、用語解説はどうしても必要と考えられるものだけ、脚注の形で入れるべき。「ヒトの胚をめぐる状況」は、報告書本文の「II.」と重複している部分が多いので、これも削除し、必要な内容は本文に繰り込むべき。

#### 整理番号103

2/15のシンポジウムに参加させていただきました。先生方のご意見にあったとおり、ヒト胚の利用については医学の進歩と、人命の尊重のバランスをどこでとるかという問題だと思います。その意味で「よほどの場合」に限定して受精胚、クローン胚含めて研究用の利用を認めるべきと思います。その観点から何点が意見を申し述べさせていただきます。

まず、法律による規制かガイドラインによる規制かについては、ヒト胚が生命の萌芽であるとするならばその取り扱いについての基本的部分についてはやはり法律で決めるべきものと考えます。国会で審議する事で国民的議論を巻き起こすことも出来るものと思います。ただ詳細についてはガイドラインでいいものと思います。

次に具体的な利用の可否については研究機関内の倫理委員会で審査されているのが現状ですが、この点についてはもっと外部に開かれた制度にする事が必要と考えます。研究機関の倫理委員会が厳しい基準で審査をされていることを疑うものではありませんが、一般国民からみた「公平らしさ」という信頼を確保するためには研究機関外の独立した審査機関を検討する事が望ましいと考えます。極端に過ぎるかも知れませんが現在の司法制度が、法律に対する国民の信頼を担保しているような機関が望ましいと思います。

もう1点は、まだこの問題に対する国民的理解が進んでいる状況とはとてもいえません。私の周りでも「クローン胚」ということばを聞いただけで「分からない、難しいこと」という反応が一般的のように思います。今日のようなシンポジウムをはじめいろんな機会を通じて国民的議論を巻き起こしていただくようお願いいたします。

#### 整理番号104

科学の進歩を止めてはなりません。科学により人類は今まで多くの恩恵を受けてきました。科学こそ人類を幸せにします。大腸ガンを最近手術しましたが、

1) 人工血液があって欲しい(100%安全な輸血は現状では不可能です。人工血液のみが100%安全です) 2) クローン臓器があって欲しい。大腸が15センチ短くなって退院しましたが、クローン臓器があれば

ば、それととり替えれば良かったです。 を感じました。

世界中で何百万人の人たちが入院して治療を待っていることでしょう。その人たち全員を助けることこそ人類の使命です。科学が人類を救います。ヒト胚の取り扱いだけ何故ストップをかけるのでしょうか。日本が世界に先駆けて行わねばなりません。キリスト教の諸国が罪の意識からためらうのは分かりますが、日本は仏教と神道の二つによって、世界で唯一「科学が進歩しやすいように守られてきた国」です。キリスト教徒に教えるのが私たちの役目です。追随してはなりません。科学の進歩に何の偏見も持たない国であるべき。それが誇りです。

#### 整理番号 105

このような形で、広く一般市民からの意見を聞くことはとてもよいことだと思います。ヒト胚の取扱いに関することは日本のみならず世界の将来の医療を左右するとても重要なことです、慎重を期すことはとても大事です。でも、これらの未知の研究に、ふたをすることは、人類の未来にふたをすることになります。明るい、未来を信じて、人類の幸福な将来を築くためにも、これらの、研究に惜しみない賞賛を与え、大いに研究され、人類のためにどんどん役立てるよう、がんばってもらいたいと思います。

#### 整理番号 106

神戸のシンポジウムに参加しました。廃棄される余剰受精卵とヒトクローン胚などに関し、「人の尊厳」の観点からの議論に温度差を感じました。本来、両者いずれもヒトの生命の萌芽と考えれば倫理的には同等に扱われるべきと思います。廃棄される受精卵には廃棄されることに倫理的抵抗感がなく、受精胚、クローン胚に対する人為的作為には倫理的に抵抗感があるというのは感情的に過ぎるように思います。

いずれにしても体細胞を利用したヒトクローン胚が現実のものとなってきている今日、難病に苦しむ患者の「人としての尊厳」を回復するためにも世界的レベルの研究を早急に進めるべきでしょう。ただし、クローン人間作製に科学者が魅いられないよう刑罰的には極刑をも含む法体系の構築が必要ではないでしょうか。また、ヒトクローン胚などを扱う研究者には公的に認められる資格制度のようなものがあっても良いと思います。

#### 整理番号 107

神戸のシンポジウムに参加いたしました。日本の英知が集まって討議を繰り替えされても、中間報告1次、2次と続き、シンポジウムを何回開いても、結論は出ないと思います。日本の国のためには是非か結論を出していただきたい。その為には誰かが貧乏籤を引かなければなりません。その人の名は内閣府政策統括官(科学技術政策担当)貴方です、早急に結論をだすべきです。お国の為に頑張ってください。

#### 整理番号 108

私は、科学者ではありませんが、それが軍事や、一部の人たちの利益の為にではなく、全人類の幸福のために利用されるのなら、科学の発展には常に賛成します。もし自分が科学者だったら、人の胚の研究を進めたくて、たまらないでしょう。

私は、子供のころに病気になり、後数日で死んでしまうような状態になったことがありましたが、科学(医学/お医者さん)のお陰で死なずに済みました。また、体に変形と故障があるので、科学的に新しい臓器や肉体を再生できるようになれば、今やれないことが出来るようになるので、とても希望が持てます。もしか

して、寿命をもっと長くすることが出来るようになるかもしれないし、先天的な病気の防止や、現在の不治の病も、この研究を進めることによって、全て解決できると考えられるので、大賛成です。

最近、韓国の科学者は、ヒトクローン胚からES細胞作成に成功しました。この人胚の研究を、日本が世界の中でいち早くマスターすれば、21世紀は、生命科学の分野でも、技術立国として経済的に発展し、世界に貢献できることは、間違いないと考えます。

科学に暗く、古い考え方、慣習にとらわれている人たちは、恐怖心によって科学の発達に反対し、人類の進歩を遅らせ、科学によって救えるはずの、多くの命を死なせてしまいます。科学者達には、幸福な人類の未来の姿が見えているはずで、自分達の優れた先見性と知性を信じ、愛に満ちた科学を発展させて下さい。私はヒト胚の研究を支持します。

整理番号109

拝啓

ヒト胚の研究開発は自由に行えるようにするべきだと思います。なぜなら私たちの生活におけるよりよい生活と言うのは科学の恩恵から来ているからです。倫理的問題と言うのは神を信仰する価値観から来ていて、神の存在を人々に信じ込ませそして膨大な利益をそこで得た人たちから反対されています。科学と言うのは人々に理解すると言う価値観を植えつけます物事を理解するとは信じることをやめる事です私たちは科学を捨てることは出来ません、もっとよりよい恩恵を科学技術から受けたいです。私はこれまで生きてきて生活における神の恩恵はぜんぜん受けたことがありません。科学の時代において神と言う価値観は必要ないです。倫理的な問題など何もありません。もっと自由に科学の研究開発が行われますように期待しています。

整理番号110

ヒト胚の取扱いに関して賛成です。もし私が病気や事故によって身体の一部を切除、または失った場合、自分の胚をもとに体の全てを再生できるからです。それは素晴らしい希望でもあります。まれに自分と一致する他人の臓器を移植する必要もなく、そして拒絶反応が起こる不安もなければ 提供者を血眼になって探す必要もありません。是非ともこのヒト胚の取扱いに関する技術をより向上させて、病気で苦しんでいる患者様の力になって欲しいです。科学者、医者、医療に関係される皆様、どうかよろしく願います。

整理番号111

何千年もの間、私たち人類は戦いの歴史を繰り返してきました。それがここ150年程前に、電気が発明され、電話、自動車、飛行機、テレビ、コンピューター、原子、ナノテク等で現在の私たちの生活は一変しました。科学の発明は私たち人類に夢と希望を与えてくれます、しかしその科学による発明品はいつも、その時代にはすぐには受け入れてはもらえませんでした、その時代の保守的な多くの人々によってバッシングされ、その科学者はきちがい扱いされるのが常でした、それがなければ現在の科学は数十年前に到達され、今はクローンの技術により、難病で苦しむ人達の沢山が、その恩恵に授かり、遺伝子組み換え食品の技術で毎日沢山の人が飢えて死ぬ事も無く、多くの人々の命を救うことができたのです、科学の研究に反対して人類の進歩を遅らせる保守的な人達は、これらの恩恵にあずかれる人達の生死に責任があります。何百万人、何千万人のひとの生死に間接的に責任が発生するのです、とくにこの、人クローン胚の研究は人類にとってとても大切なもので、地球上の人類を破滅から救う、そして人類の未来に夢を与える、私たち人間にとって必要不可欠な研究なのです、私達が人類の犯罪者にならない為にも、人の胚の研究をすすめることに賛成します。